

委託事業実施内容報告書
令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(C)】

実施内容報告書

団体名：一般社団法人磐田国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	磐田市における持続的な日本語学習を支援するためのシステムづくり
日本語教育活動に関する特定のニーズの実情や課題	【地域に居住する外国人の実情】 事業計画前、磐田市の外国人人口は2021年1月末現在で8,512人、総人口の約5.0%を占めていた。国籍別では、ブラジルが58%、フィリピンが15%で、ベトナム、中国、インドネシアと続いており、在留資格別では、永住者が39%、定住者が32%で技能実習、日本人の配偶者と続く。技能実習や、技術・人文知識・国際業務も増えているが、身分資格で滞在している人が約8割と多数。高齢化や若者の就労の問題が一部で顕在化しつつある。磐田市では、外国人は毎月150－250人ほどの転入と、100－200人ほどの転出があり、日本人に比べて移動する人の割合が多く、新型コロナウイルスの影響で国外からの転入は一時的に減っていたが、2020年秋ごろからは、もとに戻りつつあった。 【日本語教育活動の現状】 市内4カ所で日本語教室を実施。対話を中心とした活動を、対面またはオンラインで状況に合わせて行っている。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い2020年2月～5月は対面の教室活動を休止したが、その間、事務局と教室コーディネーター等でオンラインでの開催の可能性を模索し、6月から3教室は対面で、1教室はオンラインで教室活動を再開した。対面で始めた教室も感染拡大の状況に合わせて一時的にオンラインに移行したりしながら活動を継続、磐田市内でも感染者が増加した2021年1月半ばからは、対面での活動はすべて休止として3教室が合同でオンライン教室を始め、3月現在はすべてオンラインでの活動となっている。 各教室に「外国人住民コーディネーター」を置き、必要に応じて母語のサポートを行ったり、教室の様子を多言語でSNSで発信した。 【日本語教育活動を行う上での課題】 特定のニーズ：日本語を学習したい人が学習できる環境を整備する。 ・学習者が継続して教室に来ることが難しい。特に日本語初心者が続けにくい。 ・感染症の流行などで対面の教室開催ができない状況になったとき、オンライン機器の取り扱いに慣れない・使用に抵抗感がある学習者・支援者は、オンラインでの活動に参加ができず、学習や支援が継続できない。 ・オンラインの教室を開催してみても、日本語学習を希望していても教室に通えなかった人がいることがわかった。子育て中の、交通手段が無く遠くの教室に通うことができない人等。 ・在住外国人の日本語学習の継続性を担保し、かつ学習機会を拡充するためには、継続的に日本語支援者をふやしていかなければならない。教室活動の工夫やオンラインの活動にも対応できる支援者も必要になる。 ・令和元年度静岡県における地域日本語教育実態調査では、近くに無料・安価の日本語教室があることを知らない外国人が調査対象者の約半数いることがわかった。毎月200人ほどにもなる転入者と、長く住んでいても教室のことを知らない人に教室の情報を届け、学習希望者が教室にアクセスできるようにする必要がある。 ・市内の施設のWi-Fi環境が整っていないため、オンライン会議システムの試行やアプリケーションをインストールするなどオンライン活動の準備を対面で行うことが難しい。
事業の目的	さまざまな理由により、日本語学習への参加、あるいは継続的な参加が難しかった外国人に対し、日本語教室の周知の仕方や学習を継続しやすいしくみを作り、学びたい誰もが学習できる環境を整え、日本語の持続的な学習につなげる。同時に教室での活動には「生活者としての外国人」の生活課題の解決につながるものや、地域の多文化理解を促進する活動を取り入れて、誰もが地域社会で自分らしくより豊かに生活できることを目指す。
	①企画・評価・運営委員会の設置 年3回実施。事業内容や実施方法等について話し合い、事業の修正・改善を検討し、より良い事業の運営を目指した。オブザーバーとして、各教室コーディネーター等にも参加を依頼し、運営委員会での協議内容について共有できるようにした。 ②「生活者としての外国人」に対する日本語教育に共通する特定のニーズに対する日本語教育もしくは先進的な日本語教育(30時間以上)の実施 【取組1】参加・継続しやすい日本語教室の実施 市内各所の施設およびオンラインで、6つの日本語教室を実施した。 課題解決のための取り組み ・初期日本語教室の開催：日本語ゼロ初級レベルに対応した学習支援 ・オンライン日本語教室開催：日本語教室に通いにくい住民(乳幼児をかかえた人、仕事で時間が無く通えない人、教室に通う手段がない等)に対応することにより、学習機会を拡充 ・既存日本語教室(4カ所)の開催：外国人住民コーディネーターの配置/関係性の構築(日常的なSNSでの連絡/メールなど)/学習ニーズ(Can-do項目の選択)への対応/成果発表会(取組3)の開催などによる学習者のモチベーション維持 ・教室の周知、参加者登録の仕方を工夫 以下の教室・クラスを設置した。 1. はじめよう！にほんご：日本語初心者向け対話クラス 2. あつまれ！にほんごひろば：対話クラス(オンライン) 3. 西貝教室：対話クラス、子どもクラス 4. LaLa日本語教室：対話クラス 5. 竜洋教室：対話クラス 6. ワークピア教室：対話クラス、子どもクラス

事業内容の概要 (課題をどのように解決するのか、どのような点が先進的な取組になるのか分かるように記載)	(特徴) ・日本語初心者対象の対話クラスを設置した。指導者は有資格者または協会の日本語ボランティア養成講座修了者とし、日本語初心者が学習を継続しやすい環境を整えた。 ・常設のオンライン教室を設置することで、対面の教室に参加が難しい学習希望者も教室に参加できるようにした。 ・対話クラスでは、学習者のニーズを行動体験活動に取り入れた。 ・地域の機関・団体等と連携・協力を図ることで、生活課題の解決と外国人のキャリアアップにつながる日本語活動を行うと同時に、外国人と地域住民との接点を作り、外国人の地域におけるネットワークの構築と社会参加につなげていくことを目指した。 ・外国人住民コーディネーターを配置することで、外国人コミュニティに教室を周知し、学習者募集につなげた。また、学習者に寄り添い、継続しやすい環境を整えた。 ・対面で開催する教室も、感染症の流行などにより開催できなくなる状況に備え、学習者・支援者ともにオンラインと対面をスムーズに移行でき、学習が継続できる環境を整備した。 (参加者募集の工夫) ・日本語教室の活動の様子を外国人住民コーディネーターを中心にSNS等を利用して多言語で発信し、教室の情報を多くの外国人に届け、学習者の増加につなげた。 ・QRコードを読むと多言語の登録票が開く仕組みを作り、日本語初心者でも申込みが簡単にできるようにした。 ・運営委員会のメンバーでもある磐田市地域づくり応援課に協力を依頼し、転入者が必ず訪れる市役所の外国人情報窓口での教室情報の周知を行った。 ③取組の成果の発信や普及及び住民の日本語教育への理解の促進 【取組2】成果発表会の実施 学習者による日本語スピーチ発表会を行った。地域住民や、職場の人等を招き、学習者の日本語学習成果と教室活動への理解を促進した。学習者の日本語学習へのモチベーションを高めるとともに教室以外の人とのつながりも促進した。 【取組3】オンライン教室活動マニュアルの作成 活動方法をオンラインに変更する場合に備え、学習の継続を希望する学習者と支援者がスムーズにオンラインの活動に入るための手順と、開設・運用方法をまとめたマニュアルを作成した。 ④日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【取組4】日本語ボランティア養成講座2021 対話活動の相手となる補助者、対話活動のプログラムを作成して進行する人材を養成して日本語支援者を増やした。 第1回 日本語教室見学・オリエンテーション 第2回 地域の多文化共生 第3回 地域日本語教室の在り方と日本語ボランティアの役割 第4回 対話を中心とした教室活動(対面／オンライン) 第5回 対話活動の計画の立て方(対面／オンライン) 第6回 対話活動の計画を立てる 第7回 実践(対話活動進行役の体験) 第8回 振り返り・今後の活動について (特徴) ・第1回～4回で対話の相手となる補助者を養成、希望者には第5回～第8回で対話活動のプログラムの作成や進行の実習も行い、教室活動の中心となる人材も養成した。前半のみの受講も可とすることで気軽にボランティアで参加したい人を取りこぼさず、支援者の裾野を広げることを目指した。 ・対面・オンラインの両方の活動方法に対応できる内容とした。 【取組5】日本語支援者スキルアップ研修2021 これまでの日本語教室の活動の中で支援者から出てきた「日本語が初級レベルの学習者への対応が難しい」「オンライン会議システムを使いこなせない」という課題を解決し、日本語初心者やオンライン学習者の継続につなげるため、講座の受講によって学習者とのコミュニケーション力やオンラインへの対応力、活動を促進する場づくりの力を高めた。また、情報交換会を定期的に開催し、各教室での課題や取り組みについて支援者が共有することで、課題解決や改善につなげることを目指した。 第1回 Webシステム練習会① 第2回 やさしい日本語、相手に合わせたコミュニケーション 第3回 オンラインでつながる日本語教室～アナログのやさしい関係をデジタル空間へ～ 第4回 情報交換会① 第5回 Webシステム練習会② 第6回 情報交換会②
事業の実施期間	令和3年5月27日～令和4年3月18日 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	米勢 治子	東海日本語ネットワーク・副代表
2	高畑 幸	静岡県立大学国際関係学部・教授
3	古橋 哉子	(公財)静岡県国際交流協会・主幹
4	村上 勇夫	磐田市自治会連合会・会長
5	米澤 浩祐	浜松いわた信用金庫・SDGs推進副部長
6	平野 利直	平野ビニール工業株式会社・代表取締役
7	阿部 俊典	太平工業株式会社・総務課課長
8	宇田川 陽平	三井不動産商業マネジメント株式会社(ららぽーと磐田)・所長代理
9	鈴木 隆之	磐田市商工会議所・専務理事
10	磯部 公明	磐田市地域づくり応援課・課長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和3年7月6日 (火) 13:00-15:00	2時間	オンライン	【運営委員】阿部俊典, 宇田川陽平, 鈴木隆之, 高畑幸, 平野利直, 森優也(礒部公明課長代理), 米澤浩祐, 米勢治子 【オブザーバー】足立進一郎, 伊藤ゆかり, 氏原初美, 加藤千晴, 川原利彦, 楠田登志代, 田中琢間, 松浦祐子 【事務局】川添裕子, 茂木眞佐代	1. 令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 概要説明 2. 各教室の実施状況と課題及び今後の活動計画について 3. 意見交換 ・学習者, 補助者の参加を働きかける方法について 補助者…退職後教員, 外国語講座の受講生, 学生ボランティア団体, 日本語教師養成講座を受講した人, 自治会など 学習者…店舗や金融機関の来客, 商工会議所の総務担当者会議, 企業など ・コロナの状況の中で, やれる方法を模索することが大切 ・参加者の減少はコロナの関連もあり仕方がない側面も。数字に一喜一憂しなくてよいのでは。オンラインに関しては大きく発達した
2	令和3年11月8日(月) 13:00-15:00	2時間	ワークピア磐田第2会議室 (オンライン併用)	【運営委員】阿部俊典, 宇田川陽平, 鈴木隆之, 高畑幸, 平野利直, 古橋哉子, 森優也(礒部公明課長代理), 米澤浩祐, 米勢治子 【オブザーバー】足立進一郎, 伊藤ゆかり, 加藤千晴, 川原利彦, 楠田登志代, 田中琢間, 松浦祐子 【事務局】川添裕子, 茂木眞佐代	1. 報告 ・事務局より各取組みの進捗報告 ・日本語教室と関連する事業の実施状況 2. 各教室の実施状況と課題及び今後の活動計画について 3. 意見交換 ・合同教室で磐田のことを知る行動体験活動を取り入れては。 ・参加者が少ないのは企業の行動制限があったり, 情報がなくコロナに対する恐怖感, 就労が安定しないなどいろいろな要因がある。 ・学習者数に一喜一憂してそれを変えようという方向ではなく, 自分たちの活動がどんな風になっているかをコーディネーター間で議論を積んだり相互に参加して学ぶ方がよい。外国人住民コーディネーターの力を結集するとよい。 ・教室活動で何ができるようになったか見える化していく必要がある。
3	令和4年2月15日(火) 13:00-15:00	2時間	オンライン	【運営委員】鈴木隆之, 古橋哉子, 村上勇夫, 森優也(礒部公明課長代理), 米澤浩祐, 米勢治子 【オブザーバー】足立進一郎, 伊藤ゆかり, 氏原初美, 川原利彦, 田中琢間, 松浦祐子 【事務局】川添裕子, 茂木眞佐代	1. 報告 ・各取組みの進捗報告 ・浜松日本語学院との連携 ・その他の日本語教育関連の事業について 2. 質疑応答 ・今後の日本語教育事業の運営について ・磐田市の日本語教育事業体制整備 ・これまで行ってきた日本語教育事業をどう活かすか 3. 今年度の総括および今後の方向性について意見交換 ・特定のニーズの充足が進んだか ・本事業の実施によって関係団体との連携が進んだか ・本事業の実施によって地域住民の日本語教育に対する理解は深まったか 4. その他 ・来年度の日本語教育事業について

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	・磐田市役所外国人情報窓口の協力を得て、入国・転入者及び相談者等に日本語教室の情報を周知することにより、外国人の参加を促進した。 ・三井不動産商業マネジメント株式会社ららぽーと磐田オペレーションセンターの協力を得て、外国人も集まる商業施設ららぽーと磐田のLaLa Clubルームで日本語教室を開催した(コロナウイルスの感染拡大でオンラインにした回を除く)。 ・ららぽーと磐田で1月に行うインターナショナルフェアで日本語教室の活動を紹介し、市民の多文化理解の促進につなげた。 ・行政機関の職員を日本語教室に講師として招いて防災の講座を行い、外国人参加者が健康かつ安全に生活を送ることができると目指した。 ・消防署、年金事務所、薬剤師の協力を得て行動・体験活動を実施することにより、外国人参加者が日本社会のシステムを学んだり、生活に必要な日本語を身につけたりして、自立した生活ができるように支援した。 ・成果発表会に学習者の勤務先の企業の方にも参加してもらったり、スピーチの様子を動画で伝えたりして、教室活動や学習者の様子を知ってもらい、企業の方の教室への理解と学習者の日本語学習へのモチベーションを高めた。 ・「日本語ボランティア養成講座」の実施に当たり、静岡県立大学、東海日本語ネットワークから講師を招き、人材養成につなげた。 ・「日本語支援者スキルアップ研修」の実施に当たり、大学、他団体から講師を招き、支援者のスキルアップにつなげた。 ・学習者と関わりのある特定技能の登録支援団体の方が教室に補助者として参加、学習者の募集・登録、参加を促す等の協力があつた。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	【取組1】参加・継続しやすい日本語教室の実施 東海日本語ネットワーク 副代表 米勢治子 アドバイザー 川添裕子 コーディネーター(教室間調整、指導者・補助者配置、相談・助言、日本語支援者の指導・助言)、事務作業担当 矢野美佳 事務作業担当(教室報告書・参加者とりまとめ、新規学習者申込み対応)、指導者 足立進一郎 はじめよう！にほんごコーディネーター(教室運営・活動企画)、指導者 伊藤ゆかり 竜洋教室コーディネーター(教室運営・活動企画)、指導者 氏原初美 ワークピア教室コーディネーター(教室運営・活動企画)、指導者 楠田登志代 西貝教室コーディネーター(教室運営・活動企画)、指導者 田中琢問 LaLa日本語教室コーディネーター(教室運営・活動企画)、指導者 松浦祐子 あつまれ！にほんごひろばコーディネーター(教室運営・活動企画)、指導者 カルドーゾ・カロール・多美 LaLa日本語教室外国人住民コーディネーター 高橋ロウエナ はじめよう！にほんご外国人住民コーディネーター 立花チアゴ・ミツオ はじめよう！にほんご外国人住民コーディネーター 津村・タチアナ・美恵子 あつまれ！にほんごひろば外国人住民コーディネーター 袴田千里 ワークピア教室外国人住民コーディネーター 藤原ハルエ 西貝教室外国人住民コーディネーター 村岡ジョルジ 竜洋教室外国人住民コーディネーター ※外国人住民コーディネーターの所属は主な担当教室。他の教室に臨時で入ることもあり。 磐田市地域づくり応援課 ワークピア教室、はじめよう！にほんご、日本語ボランティア養成講座の会場の確保、 マイタイムライン講座講師 三井不動産商業マネジメント株式会社ららぽーと磐田オペレーションセンター LaLa日本語教室の会場の確保 磐田市外国人情報窓口 日本語教室参加者募集チラシ配布、SNSのシェア 浜松東年金事務所、薬剤師、消防署 対話活動・行動体験活動の講師 【取組2】成果発表会の実施 川添裕子 コーディネーター(企画、相談・助言)、事務作業担当 各教室コーディネーター(企画、指導、進行) 【取組3】オンライン教室活動マニュアルの作成 執筆者：川添裕子、田中琢問、松浦祐子、茂木眞佐代 翻訳者：村上ナオキ、高橋ロウエナ、ホー・ミン・フック、王藝、ジュワンダ・アルカリンド 【取組4】日本語ボランティア養成講座2021 川添裕子 コーディネーター(企画・運営、連携交渉・調整)、事務作業担当、「日本語教室見学・オリエンテーション」 「対話を中心とした教室活動(対面／オンライン)」「対話活動の計画を立てる」「振り返り・今後の活動について」講師、 「実践」コーディネーター・指導 静岡県立大学国際関係学部 教授 高畑幸「地域の多文化共生」講師 東海日本語ネットワーク 副代表 米勢治子「地域日本語教室のあり方と日本語ボランティアの役割」講師 田中琢問「対話活動の計画の立て方」講師 【取組5】日本語支援者スキルアップ研修2021 川添裕子 コーディネーター(企画・運営、連携交渉・調整)、事務作業担当、「日本語支援者情報交換会」「Webシステム練習会」 コーディネーター(進行役) 聖心女子大学 日本語日本文学科 教授 岩田一成「やさしい日本語・相手に合わせたコミュニケーション」講師 地球っ子グループ 多文化子育ての会Coconico 井上くみ子「オンラインでつながる日本語教室～アナログのやさしい関係をデジタル空間へ～」講師
----------	--

3. 各取組の報告

特定のニーズに応じた日本語教育の実施【活動の名称： 取組1 参加・継続しやすい日本語教室の実施 】			
取組の目標	これまで日本語教室に参加・継続することが難しかった日本語学習を希望する外国人住民が教室に参加しやすくなり、対話活動及び行動体験活動を通じて生活者としての外国人のエンパワーメントと更なる社会参加が可能になる。		
内 容	●市内とオンラインで6つの教室を実施した。 1. あつまれ！にほんごひろば：対話クラス（オンライン） 1回1. 5時間×21回 2. 西貝教室：対話クラス, 子どもクラス 1回2時間×10回, 1回1. 5時間×16回 3. はじめよう！にほんご：日本語初心者向け対話クラス 1回2時間×18回, 1回1. 5時間×6回 4. LaLa日本語教室：対話クラス 1回1. 5時間×15回, 1回0. 5時間×1回 5. 竜洋教室：対話クラス 1回2時間×26回, 1回1. 5時間×1回, 1回1時間×1回 6. ワークピア教室：対話クラス, 子どもクラス 1回2. 5時間×1回, 1回2時間×15回, 1回1. 5時間×9回 ・日本語初心者向け対話クラスを設置した。指導者は有資格者または協会の日本語ボランティア養成講座修了者とし、日本語初心者が学習を継続しやすい環境を整えた。 ・常設のオンライン教室を設置することで、対面の教室に参加が難しい学習希望者も教室に参加できるようにした。 ・オンライン教室には他の教室の支援者や学習者も希望者は参加できるようにし、支援者は実践でオンライン会議システムの操作に慣れた。学習者も対面教室に加え学習機会の選択肢が増えた。 ・対話クラスでは、行動体験活動を取り入れた。磐田市消防署と連携し、通報訓練や心肺蘇生法、消火器の使い方を学んだり、年金事務所と連携し、日本の年金制度の講座を開いたり、薬剤師に薬の飲み方講座を開いてもらったりした。地域の機関・団体等と連携・協力を図ることで、生活課題の解決と外国人のキャリアアップにつながる日本語活動を行うと同時に、外国人と講師（地域住民）との接点を作り、外国人とのコミュニケーションについて考えてもらう機会になった。 ・日常的にSNS、メールなどを活用し、学習者との関係性の構築をはかった。 ・「外国人住民コーディネーター」を配置することで、外国人コミュニティに教室を周知し、学習者募集につなげた。学習者に寄り添ってもらい、継続しやすい環境を整えた。 ・対面で開催する教室も、感染症の流行などにより開催できなかった場合は、オンラインで教室を実施した。オンラインと対面の切り替えは次第にスムーズになったが切り替えをすることによって学習の継続がしにくくなった教室もあった。 ・転入者には外国人情報窓口での教室情報提供、地域に長く住んでも教室情報が届いていない外国人にはSNSを活用して登録者を増やし、情報を届きやすくした。 ●教室スタッフミーティングの実施（事業対象期間前に実施1回1. 5時間×6教室） 教室活動を開始する前に、教室の目的や活動方法、年間の活動計画などについて、学習者以外の教室に関わる支援者全員で共有し、話し合うミーティングを行った。 ●教室コーディネーターミーティングの実施（事業対象期間前に実施1回1. 5時間、期間内に実施1回1. 5時間×3回） 日本語教室の目標の理解を深め、教室ごとの課題を共有、話し合うことでより良い日本語教育環境を整備するために教室コーディネーターミーティングを実施した。 ●外国人住民コーディネーター オリエンテーション（事業対象期間前に実施 1回1. 5時間×1回） 外国人住民コーディネーターの役割について共通認識をもつため、事業開始前にオリエンテーションを行った。		
実施期間	令和3年5月29日～令和4年3月13日	授業時間・コマ数	総時間244時間 1回0.5時間 × 1回 = 0.5時間 1回 1時間 × 1回 = 1時間 1回1.5時間 × 68回 = 102時間 1回 2時間 × 69回 = 138時間 1回2.5時間 × 1回 = 2.5時間
対象者	生活者としての外国人	参加者	【実 人 数】総数 359人 （受講者 217人、指導者・支援者等 142人） ※複数の教室に参加している人は各教室でカウント 【延べ人数】総数 1,542人 （受講者 706人、指導者・支援者等 836人）
	注：あ…あつまれ！にほんごひろば、西…西貝教室、は…はじめよう！にほんご、La…LaLa日本語教室、 竜…竜洋教室、ワ…ワークピア教室 数字は回【例：あ7=あつまれ！にほんごひろば 第7回】		

カリキュラム案活用	0101 適切な医療機関の選択をする(あ7 フ14)									
	0203 薬の説明を理解し、適切に利用する(あ15)									
	0301 病気を予防する(La6, フ5,9)									
	0403 犯罪に対処する(あ20, フ10)									
	0404 交通事故に対処する(あ20, フ10,13)									
	0501 避難場所・方法を確認する(西14,15 竜18 は8)									
	0502 地震発生時に適切に行動する(西16)									
	0503 台風発生時に適切に行動する(西14,15, 竜18)									
	0504 火災発生時に適切に行動する(フ12,13)									
	0801 対面販売で購入する(あ10 西13 竜9)									
	0802 飲食店を利用する(西2)									
	0803 各種サービスを利用する(フ13)									
	1202 地図を理解する(フ4)									
	1703 健康診断の通知等について理解する(La6)									
	2202 応募する(2202200 自分の能力・職歴を伝える)(は5)									
	2801 アイディアや見解を効果的に発表する(あ13 西17,18,19 は24 La16 竜26 フ23)									
	3101 あいさつをする(あ1 は19 竜21 フ18)									
	3102 自己紹介をする(あ1,3,4,5,8,11,13,17 西3,9,21,22, は1,2,3,6,8,17,23,24, La3,12,16 竜1,2,3,4,7,12,15,20,24,26,27,28 フ1,2,3,19,22,23)									
	3201 異文化コミュニケーションについて理解する(西7,10 は16,20,22 La13 竜11,14,17,23 フ6,15,16,20,21,25)									
	3701 国民健康保険・国民年金等に参加する(は11 フ11)									
カリキュラム案活用	4202 日常生活の中で日本語を学習する(あ18)									
	4301 言語(共通語, 方言, 敬語)について学ぶ(あ21)									
	4302 社会問題について理解する(あ19 La15)									
	4401 外出や余暇の計画を立てる(西4,8 は15 La11 フ17)									
使用した教材・リソース	活動進行表, 50音表, テーマ提示用写真やイラスト, パワーポイント資料(オンラインの場合), 毎回のテーマに即した教材(ハザードマップ, 地図, 年賀状, 習字セットなど), 静岡県対話交流型初期日本語教材「はじめてまして！日本語」(日本語初心者向け対話クラスで使用)等									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	25	3	155	128	1	0	120	29	150	20
	インド14人, カンボジア33人, スリランカ1人, バングラディシュ4人, ミャンマー14人, 台湾9人									
日本語教育の実施内容【あつまれ！にほんごひろば】※常設オンライン教室										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和03年05月29日 (土)19:00-20:30	1.5	オンライン	4	はじめてまして	目標 ①挨拶ができる ②自分のことについてはなせる 教室についての説明/目標確認/テーマの提示/ブレイクアウトルームに分かれ少人数で対話	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者7人		
2	令和03年06月05日(土) 19:00-20:30	1.5	オンライン	8	どちらが好きですか	目標 ①自分の意見が言える ②理由が説明できる 教室についての説明/目標確認/テーマの提示/ブレイクアウトルームに分かれ少人数で対話/発表 ・七つの質問に対して, どちらが好きか, なぜ好きかの意見をいう。補助者はワークシートのなどにメモしながら学習者が話した内容をメモする。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者6人		
3	令和03年06月19日 (土)19:00-20:30	1.5	オンライン	3	好きなものはなんですか	目標 ①好きなもの・好きなことについてはなせる。 ②たくさん しつもんが できる。 目標確認/テーマの提示/ブレイクアウトルームに分かれ少人数で対話/発表 ・インタビューを相手にする・聞いた内容を発表するというタスクを出した。インタビュー中は聞いたことをメモするというタスクも加えた。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者4人		
4	令和03年07月03日 (土)19:00-20:30	1.5	オンライン	6	嫌いなものは何ですか？	目標 ①嫌いな物について詳しく話せる。(初級学習者) ②相手にアドバイスができる。(中級以上) 目標確認/テーマの提示/ブレイクアウトルームに分かれ少人数で対話/発表 ・1人ずつ嫌いな物について話し, それに対してのアドバイスをグループの人からもらう。発表では, 嫌いな物ともらったアドバイスを話す。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者5人		
5	令和03年07月17日(土) 19:00-20:30	1.5	オンライン	4	みんなに見せたい自慢の物	目標 ①物の説明と質問を通して日本語を学ぶ。 おすすめ日本語勉強法/目標確認/テーマの提示/ブレイクアウトルームに分かれ少人数で対話/発表 ・みんなに見せたい自慢の物や, 思い出の物, 見せたいのもなら何でも画面の前に持ってきてもらい紹介する。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者5人		

6	令和03年08月07日(土) 19:00～20:30	1.5	オンライン	8	オリンピックで感動したこと	目標 ①自分の気持ちを相手に伝えることができる ②相手の気持ちを理解することができる 自己紹介(名前, 国, 好きな飲み物)/テーマの提示/目標確認/テーマの説明/グループ対話/発表	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者8人
7	令和03年08月21日(土) 19:00～20:30	1.5	オンライン	6	ストレス感じてる?	目標 ①アンケートなどで症状や体調に関する質問に答えられ, 詳しく説明できる。 ②ストレス解消法について自分のしていることを相手に説明できる。 ・グループ対話①タスクシート(模擬アンケート・問診票)をつかって, 体の症状を話しながら普段どんなストレスがあるか話した。 ・グループ対話②ストレス解消法についてアイデアを出しあう。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者4人
8	令和03年09月04日 (土)19:00～20:30	1.5	オンライン	11	どんな性格ですか?	目標 ①自分や家族の性格を表現する言葉を知っている。 ②よく知らない人(物)の印象を言える。 ・対話活動①で自分, 家族, ペット, など身近な人の性格をあらわす言葉を知る。 対話活動②で知らない人をどんな人か想像して対話活動①で知った言葉を使ってみる。	指導者1人	補助者6人
9	令和03年09月18日(土) 19:00～20:30	1.5	オンライン	10	なおしたい わるいくせ, ありますか?	目標 ①自分の『なおしたいくせ』を日本語で言える ②ほかの人の『なおしたいくせ』を日本語で聞いてわかる 自己紹介/目標確認/テーマの提示/ブレイクアウトルームに分かれ少人数で対話/発表/ペア対話(2, 3人で自由に話す)/目標達成確認口	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者5人 見学者1人
10	令和03年10月02日(土) 19:00～20:30	1.5	オンライン	6	さいきん, はまっていること ありますか?	目標 ①自分のはまっていることを, 詳しく話せる ②ほかの人がはまっていることも話せる 自己紹介/目標確認/テーマの提示/ブレイクアウトルームに分かれ少人数で対話/発表/ペア対話(2, 3人で自由に話す)/目標達成確認口	指導者1人	補助者5人
11	令和03年10月16日 (土)19:00～20:30	1.5	オンライン	10	最近買ったもの	目標 ①どこで, 何をを買うことができるか話せるようになる ②自分が買ったものについて, 話せるようになる 自己紹介/テーマの提示/目標確認/ブレイクアウトルームに分かれ少人数で対話/発表/目標達成確認口 ・自分が最近買った物を実際に見せたり, どこで買ったなどを話した。	指導者1人 日本語ボランティア養成講座受講者1人 外国人住民 Co.1人	補助者8人
12	令和03年11月06日 (土)19:00～20:30	1.5	オンライン	6	テーマ:節約	目標 ①節約するために何をしているか話せるようになる 自己紹介/テーマの提示/目標確認/ブレイクアウトルームに分かれ少人数で対話/発表 ・お金を何に使っているのか話す。 ・節約するために何をしているか話す。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者4人
13	令和03年11月20日(土) 19:00～20:30	1.5	オンライン	5	日本語でスピーチ	目標 ①いつもより長い, まとまった文章を話そう 自己紹介/アイスブレイク/目標確認/テーマ提示/支援者とブレイクアウトルームでペアになり, スピーチの文章を考える/見学者を入れてスピーチ発表	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者6人
14	令和03年12月04日 (土)19:00～20:30	1.5	オンライン	5	今年したこと, 来年したいこと	目標 ①今年したことが言える ②来年したいことが言える 自己紹介/アイスブレイク/目標確認/テーマ提示/ブレイクアウトルームに分かれ少人数で対話/発表/ペア対話	指導者1人	補助者4人
15	令和03年12月18日 (土)19:00～20:30	1.5	オンライン	3	薬剤師さんと話そう	目標 ①たくさん質問してみよう 今日の流れ説明/自己紹介/アイスブレイク/目標確認/講師のお話/グループに分かれ, わかったこと, 質問したいことなどを話す/質疑応答/ペア対話 ・普段なかなか, 話す機会がないない薬剤師の方と話し, 普段聞けない質問などをする	指導者1人 外部講師1人 外国人住民 Co.1人	補助者6人

16	令和04年01月15日 (土)19:00～20:30	1.5	オンライン	4	今年の目標(今年 やりたいこと)	目標 ①今年、やりたいことが話せる。 今日の流れ説明/教室紹介/自己紹介/ア イスブレイク/目標確認/テーマ提示/グ ループ対話/発表/ペア対話 ・今年やりたいこと、行きたい場所について 話す。お正月にどんな過ごし方をしたのか も話す。	指導者1人	補助者5人
17	令和04年01月29日 (土)19:00～20:30	1.5	オンライン	8	子どものころの遊 び	目標 ①子どもの頃のことが話せる 今日の流れ説明/教室紹介/自己紹介/ア イスブレイク/目標確認/テーマ提示/グ ループ対話/発表/ペア対話 ・子どもの頃の自分のこと、兄弟がいるか、 どんなものが好きだったか、どんなもので 遊んだかなどを話す	指導者1人	補助者6人
18	令和04年02月05日 (土)19:00～20:30	1.5	オンライン	11	おすすめの勉強法	目標 ①おすすめの勉強法を紹介できる 今日の流れ説明/教室紹介/自己紹介/ア イスブレイク/目標確認/テーマ提示/グ ループ対話/発表 ・おすすめの勉強法から、勉強しているとき に何を使うか(辞書、携帯アプリ、WEBサイ ト)などを話す。何を勉強しているのか、い つ、どこで勉強するのかなど。	指導者1人	補助者4人
19	令和04年02月19日 (土)19:00～20:30	1.5	オンライン	5	最近見たニュース	目標 ①最近見たニュースについて話せ る。 今日の流れ説明/教室紹介/自己紹介/ア イスブレイク/目標確認/テーマ提示/グ ループ対話/発表 ・いつ、どこで、そのニュースを見たのか、 どう思ったのかなどを話せるようになる。	指導者1人	補助者4人
20	令和04年03月05日 (土)19:00～20:30	1.5	オンライン	6	事件・事故にあつた ら？	目標 ①いつ、どこで事件・事故にあつ たか話せる。 ②そのとき何をしたか話せる。 今日の流れ説明/教室紹介/自己紹介/ア イスブレイク/目標確認/テーマ提示・救急 ダイヤルクイズ/グループ対話/発表	指導者1人	補助者6人 見学者4人
21	令和04年03月12日 (土)19:00～20:30	1.5	オンライン	3	方言	目標 ①方言がなにか知っている。 今日の流れ説明/教室紹介/自己紹介/ア イスブレイク/目標確認/テーマ提示/グ ループ対話/発表 ・静岡で聞く方言から各国の民族や文字な どの話などいろいろな話に広がった	指導者1人	補助者6人
日本語教育の実施内容【西貝教室】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和03年06月06日 (日)14:00～15:30	1.5	オンライン	9	お休みの間何をし ていましたか？(コ ロナが収まったら) 何をしたいです か？	・教室が休みの時どう過ごしていたか、コロ ナが収束したら何をしたいか話す ・他の人の話を聞き質問してみる ・オンラインを楽しむ	指導者3人 外国人住民 Co.1人	補助者5人
2	令和03年06月13日 (日)14:00～15:30	1.5	オンライン	3	好きなレストランや ファーストフード店	普段行きそうなレストランの看板を提示し、 そこでは何が食べられるかをクイズ形式で 行い、ウォーミングアップ。好きな(行ってみ たい)レストランやファーストフード店につい て、何が食べられるか、好きなメニューは何 か、だれと行くかなどについて話をし、その 内容について質問したりして対話を行っ た。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者4人
3	令和03年06月27日 (日)14:00～15:30	1.5	オンライン	5	お気に入りを紹介 しよう	1, お気に入りを紹介する。 2, 他の人の話を聞いて質問する。 お気に入りの物を紹介する(実際に実物を 見せる)お互いに質問しながら、話を進め た。	指導者4人	補助者4人
4	令和03年07月04日 (日)14:00～15:30	1.5	オンライン	2	夏にやりたいこと (行きたい場所、食 べたいもの)	スイカ、花火、かき氷など、夏をイメージす るものの絵を提示し、クイズ形式で何かを 当ててもらいウォーミングアップ。夏に行き たい場所、食べたいものについて話をし て、その内容についてお互いに質問したり して対話を行った。	指導者3人	補助者2人
5	令和03年07月11日 (日)14:00～15:30	1.5	オンライン	2	スポーツについて	オリンピックが近いので、自分が過去行っ ていたスポーツ、見てみたい・やってみたい スポーツ、自国で流行っているスポーツ等 スポーツに関する話を話す。 ①自分の興味のあるスポーツについて話 す。 ②他の人の話を聞き質問する ③初めて聞いた言葉を覚える	指導者3人 外国人住民 Co.1人	補助者2人

6	令和03年07月18日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	3	紹介したい歴史上の人	・紹介する人の名前, 出身, 何をした人か話す。 ・他の人からの質問に答える。 ・他の人の話を聞いて意見が言える。 以上3点を目標に対話を行った。	指導者3人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
7	令和03年08月01日 (日)14:00-16:00	2	西貝交流センター	9	夏まつり	夜店, ヨーヨー, 金魚すくい, 花火など夏まつりの写真を提示し, クイズ形式で何かを当ててもらふ。日本の夏まつりに行ったことがあれば, そのときに買ったものや食べたものについて対話する。日本の夏まつりに行ったことがなければ, 自分の国のおまつりについて話をする。その後, その内容についてお互いに質問したりして対話を行った。	指導者4人	補助者1人
8	令和03年08月29日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	3	旅行	1, 今までに行ったところ, これから行きたいところの話をする。 2, 他の人の話を聞いて質問する。 3, はじめて聞いた言葉を覚える。	指導者5人 外国人住民 Co.1人	補助者2人
9	令和03年09月05日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	3	あなたの国のおすすめの場所は	1, 自分の近くに何かあるか言える。 2, 他の人の話を聞き質問する。 3, 初めて聞いた言葉を覚える。	指導者1人	補助者4人
10	令和03年09月12日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	3	好きなお菓子をオノマトペを使って紹介する。	1, オノマトペを知る。 2, オノマトペを使う。 自己紹介の時, 自分の国のいぬ, ねこ, にわとりの鳴き声を言う。 お菓子を食べる時の”食感”のオノマトペを紹介する。 グループ対話の後で, 持ってきたお菓子をオノマトペを使って発表する。	指導者3人	補助者3人
11	令和03年09月26日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	2	あなたの きぶんてんかんは なんですか？	1. 「気分転換」 言葉を知る。(イラスト使用) 2. 自分の気分転換を話す。 3. 他の人の気分転換の話を聞く, 質問する。 4. 初めて聞いた言葉をメモし, 覚える。	指導者2人	補助者4人
12	令和03年10月10日 (日)14:00-16:00	2	西貝交流センター	3	同音異義語	「はな」という語を提示し, 「花」「鼻」の2つ意味があることに気づく。これを同じ発音を持つことばで, 意味が違う「同音異義語」ということを理解する。ほかの同音異義語をグループで探し, その語を使って文を作り, グループ内で確認する。他のグループが見つけた同音異義語をひらがなで示し, その意味を考え, 発表し合う。発表を聞きながら, 他の意味もあれば, 追加する。	指導者4人	補助者2人
13	令和03年10月17日 (日)14:00-16:00	2	西貝交流センター	3	買い物はどこでしますか？	・ゲームと自己紹介で自分の習慣にしているものを話す。(進行:安西) ・買い物はどこでしているか？(店・ネット・他には?) どうしてそこでしているのか？良かったこと悪かったことを話す。 ・他の人の話を聞き質問したり, 自分の生活に役立たせる。	指導者4人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
14	令和03年11月14日 (日)14:00-16:00	2	西貝交流センター	8	防災	目標 ①自分の居住地のハザードマップと5段階警戒レベルの見分け方の確認 ②避難時に持ち出すものの確認 ・磐田市の地図, 洪水ハザードマップ, 5段階警戒レベル図表を掲示 ・洪水ハザードマップ, 5段階警戒レベル図表の見方, 自分の避難場所の確認 ・避難時に持ち出すものの確認	指導者3人 日本語ボランティア養成講座受講者2人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
15	令和03年11月21日 (日)14:00-16:00	2	西貝交流センター	10	マイ タイムライン講座(洪水)	先週に引き続き防災についての教室活動を行う。 地域づくり応援課・平松さんの話を聞き, 多文化防災の会の方々にサポートをしてもらいながら自分の避難のためのマイタイムラインを作る。	指導者3人 外国人住民 Co.1人	補助者5人 市役所職員1人 多文化防災の会5人

16	令和03年11月28日 (日)14:00-16:00	2	西貝交流センター	8	・起震車体験 ・2021年 わたしの ことば大賞	1, 会場に起震車が来ていたため、起震車に乗る体験をする。 2, 「新語・流行語大賞」というのがあることを知る。 3, 「今年のわたしのことば大賞」を質問しあって考える。	指導者3人	補助者2人
17	令和03年12月05日 (日)14:00-16:00	2	西貝交流センター	3	一年を振り返り作文を作ろう①	今年思い出に残ったことを話し、文にしてみる。 文字を丁寧に書き、正しく発音をする。 はじめは思いつくままに話をし、要点を絞るサポートを支援者が行う。 書いてみる。	指導者3人 外国人住民 Co,1人	補助者3人
18	令和03年12月12日 (日)14:00-16:00	2	西貝交流センター	6	一年を振り返って作文を作ろう②	前回の教室で、「一年を振り返って」自分が発表したいことをまとめたので、今回はその原稿を推敲し、内容を補足したり、表現を工夫したりする。補助者にサポートしてもらいながら、自分が伝えたいことをまとめ、発表内容の原稿を完成させる。後半は、原稿を見ながら、相手に伝えたいことをわかりやすく発表し、お互いに聞き合い、次の発表に向けて、課題を見つける。	指導者3人 外国人住民 Co,1人	補助者2人
19	令和03年12月19日 (日)14:00-16:00	2	西貝交流センター	6	1, スピーチ発表 2, ゲームを楽しむ	1, 「わたしの一年」のスピーチを発表 聴いている人は各発表者に質問をする。 2, ゲーム「福笑い」「すごろく」をする。	指導者4人	補助者3人 交流センター職員1人
20	令和04年01月16日 (日)14:00-16:00	2	西貝交流センター	6	お正月をどのように過ごしたか／どんな年にしたいか	ウォーミングアップでは、十二支の話を聞き、12の動物とその順番を知る。 取組テーマにそって、お正月を「だれと、どこで、どのように過ごしたか」を進行役の例を聞き、それを参考に補助者と対話しながら前半はワークシートにまとめる。後半は発表し、全体で共有し、発表内容についてお互いに質問し、理解を深める。	指導者4人	補助者2人
21	令和04年01月30日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	2	自分の国の名物を紹介しよう	自分の国の名物を日本語で詳しく紹介する。 名物の名前、どこの名物か、どんなものか、名物の良いところ・・・などを詳しく話す。	指導者2人	補助者1人
22	令和04年02月06日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	3	趣味	1, 趣味(たのしみながら、つづけていること)を話す。 2, 他の人の話を聞いて質問する。 3, はじめて聞いた言葉を覚える。	指導者2人	補助者4人
23	令和04年02月20日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	1	それは何ですか	1, 質問をする～そのものが何であるかいくつも質問をする。 2, 説明をする～見せてないものを何であるか説明をする。 3, 初めて聞いた言葉を覚える	指導者1人	補助者4人
24	令和04年02月27日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	1	最近ちょっとハマっていること	最近ちょっとハマっていることを話す。 新しい言葉を覚える。	指導者2人	補助者2人
25	令和04年03月6日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	3	四季(春, 夏, 秋, 冬)	1, 自分の国の季節や、日本の四季の話を する。 2, 他の人の話を聞いて質問する。 3, はじめて聞いた言葉を覚える。	指導者2人	補助者2人
26	令和04年03月13日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	1	お気に入りの洋服	1, 日本のお菓子クイズ(アイスブレイク) 2, お気に入りの洋服について、「どこで買ったか」「どんな時に切るか」など話す。 4, 質問に答え、対話しながら語彙を増やす	指導者1人	補助者3人

日本語教育の実施内容【はじめよう！にほんご】※日本語初心者向け対話クラス								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和03年06月06日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	6	自己紹介	1 自分の名前, 国籍などを伝える。 2 自分の名前をひらがな, カタカナ, 漢字のどれかで書く。 3 他の人の自己紹介を聞いて理解する。	指導者1人 外国人住民 Co.2人	補助者5人
2	令和03年06月20日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	14	出身地	1 自分の出身地の有名なものや有名なところを伝える。 2 自分の出身地の有名なものや有名なところに関する経験を伝える。 3 他の人の出身地の有名なものや有名なところの話を聞いて理解する。	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者3人
3	令和03年06月27日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	5	家族	1 自分の家族の人数や構成を伝える。 2 自分の家族の住んでいるところや仕事などを伝える。 3 他の人の家族の話を聞いて理解する。	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者4人
4	令和03年07月11日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	6	食べ物	1 自分の好きな食べ物を伝える。 2 自分の嫌いなものや, 食べられないものを伝える。 3 他の人の食べ物の話を聞いて理解する。	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者3人
5	令和03年07月18日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	4	仕事	1 自分が今している仕事や, 今までした仕事を伝える。 2 自分が 今の/以前働いていた 職場でどんな仕事をしているか/していたか説明する。 3 他の人がどんな仕事をしているか, 今までどんな仕事をしたか聞いて分かる	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者3人
6	令和03年08月01日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	11	私の一日	1 自分が一日に何をするかを伝える。 2 自分が何時に何をするか順を追って伝える。 3 他の人の一日の過ごし方を聞いて理解する。	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者2人
7	令和03年08月08日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	6	買い物	1 自分がいつもどこで買い物をするか伝える 2 自分がいつも買うものを伝える 3 他の人がいつもどこで何を買うか聞いて理解する	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者2人
8	令和03年08月22日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	6	住んでいるところ	1 自分の住んでいるところに何があるか伝える。 2 他の人の住んでいるところの話を聞いて理解する。 3 自分の住所をローマ字, ひらがな, 漢字などで書く。	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者3人
9	令和03年09月05日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	9	交通	1 いつも何でどこまで移動するか伝える 2 いつも使っている交通手段のいいところ, 悪いところを伝える 3 他の人がいつも何でどこまで移動しているか聞いて分かる	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者3人
10	令和03年09月12日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	4	料理	1 自分がよく作る料理の名前を伝える 2 自分がよく作る料理の材料や作り方を伝える 3 料理の作り方を聞いて理解する	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者4人
11	令和03年09月19日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	7	年金	全員自己紹介で話しやすい雰囲気を作る。 「年金が何か知っている」「どうしたら年金をもらえるか知っている」を目標に, 講師の話を聞き(ポルトガル語・英語通訳), グループでわかったこと, わからなかったことを話し, 全体で質疑応答。	指導者1人 外部講師2人 外国人住民 Co.2人	補助者2人

12	令和03年10月17日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	3	宝物・お気に入りのもの	1 自分が大切にしているものや、お気に入りのものを見せながら紹介する。 2 自分が大切にしているものや、お気に入りのものをどうやって手に入れたか伝える。 3 他の人が大切にしているものや、お気に入りのものについて聞いて分かる。	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者3人
13	令和03年10月24日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	5	お勤めの店	1 自分が気に入っている店を伝える。 2 自分が気に入っているお店について、どこがいか伝える。 3 他の人が気に入っているお店の話を聞いて理解する。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者2人
14	令和03年10月31日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	3	これから勉強したいこと	1 これまで学習したトピックを振り返り、自分の気持ちを伝える。 2 これから学習したいトピックを考え、自分の気持ちを伝える。 3 他の人が学習したこと・学習したいことを聞いてわかる。	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者1人
15	令和03年11月14日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	7	行きたいところ、したいこと	1 休みの日に行きたいところやしたいことを伝える。 2 他の人の行きたいところやしたいことを聞いて理解する。 3 他の人が休みの日に行きたいところやしたいことを聞いて、自分の経験や考えを伝える。	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者3人
16	令和03年11月21日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	5	年中行事	1 自分の国や地域の行事を伝える。 2 自分の国や地域の行事で何をするか伝える。 3 他の人の国や地域の行事の話を聞いて理解する。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
17	令和03年11月28日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	4	休みの日	1 休みの日がいつかを伝える。 2 いつも休みの日に何をするか伝える 3 他の人が休みの日に何をするか聞いて理解する。	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者3人
18	令和03年12月05日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	6	災害時の避難	1自分の家・職場から逃げる場所が分かる 2避難の時、必要なものが分かる 3地震の前に準備しておくものがわかる	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
19	令和03年12月12日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	5	年賀状を書く	1 名前と住所を書く。 2 新年のあいさつを伝える。 3 他の人が書いた年賀状を理解する。	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者2人
20	令和04年01月16日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア	6	書道体験	1 書きたい言葉を伝える。 2 どうしてその言葉を選んだのか説明する。 3 他の人が書いた言葉を理解する。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者3人 見学者1人
21	令和04年01月30日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	4	旅行	1 自分の旅行した時期と場所を伝える 2 自分の旅行の経験について、何をしたか、何を食べたかなどを伝える 3 他の人の旅行の話を聞いて理解する	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者5人
22	令和04年02月13日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	6	年中行事の思い出	1 自分が経験した行事について、どこで、誰と、何をしたか伝える 2 他の人の経験した行事の話を聞いて理解する 3 これから体験してみたい行事を伝える	指導者2人 外国人住民 Co.2人	補助者3人
23	令和04年02月20日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	2	宝物・お気に入りのもの	1 自分が大切にしているものや、お気に入りのものを見せながら紹介する 2 自分が大切にしているものや、お気に入りのものを、どうやって手にいれたかを伝える 3 他の人が大切にしているものや、お気に入りのものについて聞いて分かる	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
24	令和04年03月06日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	3	短いスピーチをする	1 何について話すか(主題)を考える。 2 話す内容(原稿)を作る。 3 スピーチを発表する。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者6人 見学者4人

日本語教育の実施内容【LaLa日本語教室】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和03年06月12日 (土)14:00-15:30	1.5	オンライン	6	コロナウイルス	目標:①コロナに関する情報, 言葉がわかる。②これからやりたいことについて話せる。 アイスブレイクを実施し, コロナに関する情報をどこで収集しているか, どのようなサービスがあるかを学習者に質問。コロナが落ち着いた後にやりたいことに関する話題の提示。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者7人
2	令和03年06月26日 (土)14:00-15:30	1.5	オンライン	5	夏といえば?	目標:夏の過ごし方, 楽しみ方について話せる。 アイスブレイクを実施, 夏に関する話題や, オリンピックに関する話題の提示。	指導者1人	補助者3人
3	令和03年07月10日 (土)14:00-15:30	1.5	オンライン	3	休日の過ごし方	目標:普段の休日の過ごし方について話せる, 相手の過ごし方について質問ができる。 アイスブレイクを実施, 夏に関する話題や, 普段の休日の過ごし方, 今週末の過ごし方に関する提示。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
4	令和03年07月24日 (土)14:00-15:30	1.5	オンライン	4	2021年前半の振り返り	目標:今年取り組んだことについて話せる。これからやりたいことを話せる。 アイスブレイクを兼ねた自己紹介を実施。来年の, 普段の休日の過ごし方, 今週末の過ごし方に関する提示。	指導者1人	補助者5人
5	令和03年08月14日 (土)14:00-15:30	1.5	オンライン	9	好きなスポーツ	目標:好きなスポーツについて説明できる。相手の好きなスポーツについて聞くことができる。 自己紹介, アイスブレイクを行う。好きなスポーツについて提示し, グループ対話を実施。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者6人
6	令和03年08月28日 (土)14:00-15:30	1.5	オンライン	3	健康	目標: ①健康について気を付けていることが話せる ②健康について, 相手が何に気を付けているか話を聞くことができる。 アイスブレイクを実施, 健康に関する提示をし, グループ対話を2回実施	指導者1人	補助者5人
7	令和03年09月11日 (土)14:00-15:30	1.5	オンライン	6	得意なこと, 苦手なこと	目標:自分の得意なこと, 苦手なことが話せる 自己紹介をし, 得意なことについて提示し, グループ対話を実施。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者8人 見学者4人
8	令和03年09月25日 (土)14:00-15:30	1.5	オンライン	5	秋といえば	目標:秋に関する思い出やエピソードが話せる 全体で自己紹介をし, 秋に関するキーワードや表現を確認し, グループ対話を実施。	指導者1人	補助者6人 見学者5人
9	令和03年10月09日 (土)14:00-15:30	1.5	オンライン	5	趣味・特技	目標:秋に関する思い出やエピソードが話せる 全体で自己紹介をし, 秋に関するキーワードや表現を確認し, グループ対話を実施。	指導者1人	補助者3人
10	令和03年10月23日 (土)14:00-15:30	1.5	オンライン	7	コロナでこまったこと	目標:ワクチンや病気(びょうき)について, 心配(しんぱい)がなくなる。 全体で自己紹介をし, 秋に関するキーワードや表現を確認し, グループ対話を実施。	指導者1人 日本語ボランティア養成講座受講者2人 外国人住民 Co.1人	補助者2人
11	令和03年11月13日 (土)14:00-15:30	1.5	ららぽーと 磐田	6	行きたい場所, やりたいこと	目標:①行きたい場所について話せる。②やりたいことについて説明できる。 全体で自己紹介をし, テーマに関する提示を受け, グループ対話を実施。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	なし
12	令和03年11月27日 (土)14:00-15:30	1.5	ららぽーと 磐田	7	毎日何をしますか?	目標:①自分自身が毎日何をしているか話せる。②相手が毎日やっていることについて, 質問できる。 毎日何をしているかに関する提示し, グループ対話を実施。発表の際には, 自身の紹介ではなく同じグループメンバーの誰かが「毎日すること」について紹介。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者2人

13	令和03年12月11日 (土)14:00-15:30	1.5	ららぽーと 磐田	10	年末、年始	目標:①年末年始の予定が話せる。②年 末年始の思い出が話せる。 全体で自己紹介をし、テーマに関する提示 を受け、グループ対話を実施。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
14	令和04年01月08日 (土)14:00-15:30	1.5	ららぽーと 磐田	5	年末年始はどうし てた?／今年の目 標	「経験や計画について説明や理由を話すこ とができる」を目標に、年末年始にしたこ と、今年の目標についてグループで話す。 対話前のメモとふりかえりで書いた「今日話 したこと」を比較し、できるようになったこと を実感する。	指導者1人	補助者1人
15	令和04年2月26日 (土)14:00-14:30	0.5	オンライン	0	最近気になった ニュース ※学習者なしのため活動中止	学習者の様子と参加について支援者間で 話す	指導者1人	補助者3人
16	令和04年03月12日 (土)14:00-15:30	1.5	オンライン	1	私が頑張ったこと	「頑張ったことや好きなことについて詳しく 説明できる」を目標に、それぞれ頑張った 事について話す。学習者は話す準備の段 階で出した話題をスピーチとして話せるよう に準備をし、最後に発表。	指導者1人	補助者5人
日本語教育の実施内容【竜洋教室】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和03年05月30日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流セ ンター	2	好きなこと・好きな もの	今年度最初の教室。新しいメンバーと自分 のことを話してコミュニケーションを深める レベルの違いにも対応するため、誰でも話 がしやすい“好きなもの・好きなこと”をテ マとする	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者2人
2	令和03年06月06日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流セ ンター	7	自分のことを話そう	目標:自分のことを話すことができる 内容:グループ対話では、名前、住んでい る所、誕生日、仕事、家族、好きな色、性 格、宝物など、自分のことを話す ペア対話は感染予防のため中止し、学習 者を入れ替えてグループでのフリートーク をする	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者2人
3	令和03年06月13日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流セ ンター	12	趣味	目標:自分の趣味を話すことができる まわ りの人の話を聞いて共感したり、参考にし たりする 内容:自分の趣味について話す	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者5人
4	令和03年06月20日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流セ ンター	9	将来の夢	目標:将来の夢を話すことができる まわ りの人の話を聞いて共感したり、質問したり する 内容:将来の夢について話す	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者2人
5	令和03年07月04日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流セ ンター	9	質問をしてみよう	目標:質問をすることができる (質問する ことで会話の主役(中心)になる) 内容:学習者は話すテーマを補助者に伝 え、質問をする 対話の最後に感想を伝え る 補助者は質問に答える 質問はしない (2 回に分けたうちの1回目。質問をするため の準備的活動)	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
6	令和03年07月11日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流セ ンター	3	質問をしてみよう 2	目標:質問をすることができる (質問する ことで会話の主役(中心)になる) 内容:学習者は話すテーマを補助者に伝 え、質問をする 対話の最後に感想を伝え る 補助者は質問に答える 質問はしない	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
7	令和03年07月18日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流セ ンター	7	大切なもの・こと	目標:自分の大切なもの・ことを話すこと ができる まわりの人の話を聞いて質問をす ることができる 内容:自分の大切なもの・ことについて話す	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
8	令和03年07月25日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	8	知りたいこと	目標:自分の知りたいことを質問することが できる 内容:自分の知りたいことについて話す	指導者1人	補助者2人
9	令和03年08月01日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流セ ンター	2	怖かったこと(怖い こと)	目標:自分の怖かったこと(怖いこと)を話 すことができる。 また、質問をすることもで きる 内容:自分の怖かったことをこと(怖いこと)につ いて話す	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
10	令和03年08月29日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	1	コロナ禍の生活	目標:最近の生活の様子や心配なことを話 すことができる 内容:最近の仕事・STAY HOMEの様子、心 配なことなどを話す お互いに質問をし合う	指導者1人	補助者3人

11	令和03年9月05日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	4	文化・習慣の違い	目標:自国の文化, 習慣について日本との違いを話すことができる 内容:日本で生活をしていて, 自国と日本との文化, 習慣の違いを知ったり, 感じたりしたことを話す フリートークでは話したいこと, 知りたいことなどを話す	指導者1人	なし
12	令和03年09月12日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	2	私のおすすめ	目標:自分が知っている「おすすめ」を話す事ができる 他の人の「おすすめ」が理解できる	指導者2人 外国人住民 Co.1人	なし
13	令和03年09月26日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	3	かぞえよう	目標:ものの名前と数え方を知る 内容:家にある物や絵に描いたもの, 絵カードなどを見せてどのように数えるか話す	指導者2人 外国人住民 Co.1人	なし
14	令和03年10月03日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流センター	5	オノマトペ	目標:①日本の物事の声や音・様子・動作・感情などを表した擬声語(オノマトペ)を理解する②日本と自分の国のオノマトペの違いを話す 内容:物事の声や音・様子・動作・感情などを取り上げて音(おん)で言ってみる 自分の国の表現を話す	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
15	令和03年10月10日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流センター	1	これまでの私	目標:①「スピーチのつくり方」を参考に話す内容を考え, 発表する ②他の人のスピーチを聞いて質問をする 内容:スピーチの内容を考え, 発表 発表を聞いて質問をしたり, 参考になったことなどを話したりする	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者2人
16	令和03年10月17日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流センター	4	秋と言えば	目標:秋の思い出, 楽しみや計画などを話す 内容:自分の秋の過ごし方について考え, 体験談やこれからの計画などを話す 周りの人から情報をもらったり, 質問したりする	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
17	令和03年10月31日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流センター	2	料理(調味料)	目標:日本の調味料と自国の調味料の違いがわかり使うことができる 内容:テーマ提示で, 日本の調味料の説明「さしすせそ」で覚えると覚えやすいそして, ちらし寿司の作り方で調味料がどのように使われているか説明 グループ対話では「自国の調味料を紹介する」「自国の調味料の自慢をする」「日本の調味料の使い方を覚える」を提示	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者2人
18	令和03年11月07日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流センター	2	マイタイムライン講座	目標:マイタイムラインを作成する 内容:やさしい日本語での説明を聞き, 大雨時の危険の度合いを理解し, その時にどのようにすればいいのか自分で考える	指導者2人 外部講師1人 外国人住民 Co.1人	補助者5人
19	令和03年11月28日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流センター	4	最近買ったもの	目標:①最近買ったものについて話す②話を聞いて情報を得る 内容:最近買ったものについて, 「何を」「どこで」「どのようなもの」「感想」などを話す	外部講師1人	補助者1人
20	令和03年12月12日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流センター	3	私の趣味	目標:自分の好きなこと, いつも楽しんでしていることを話す事ができるようになる 内容:自分の趣味と何故好きなのか理由を話す	外国人住民 Co.1人	補助者1人
21	令和03年12月19日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流センター	4	年賀状を書こう	目標:日本の伝統文化である「年賀状」の意味を知り, 実際に書く 内容:学習者は補助者宛に, 補助者は学習者宛に年賀状を書く	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
22	令和04年01月16日 (日)14:00-16:00	2	竜洋交流センター	1	今年の目標	目標:今年はどうなことをしたいか, 目標を考え, 発表することができる 内容:参加者全員, 今年の目標について話すその後フリートークに移り, 「夢を見るか」などを話す	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者2人

23	令和04年01月30日 (日)14:00-15:00	1	オンライン	0	2月と3月の行事	目標:日本の行事を知り, 自国の行事と同じこと, 違うことを話す 内容:学習者の参加を待ちながら, コロナ禍での学習者の様子や日本語教室の今後などについて話す 学習者の参加がなかったので, テーマの対話活動はやれなかった	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
24	令和04年02月06日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	1	私の小さい頃	目標:自分の小さい頃の様子やお互いの共通点や相違点を話す 内容:参加者全員, 小さい頃の様子を話すその後フリートークに移り, 日本語の勉強の仕方, 仕事, 子どものことなどを話す	指導者1人	補助者1人
25	令和04年02月20日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	1	楽しいこと	目標:コロナ禍の生活が続く毎日, どんな楽しいことでモチベーションを維持しているか話す 内容:参加者全員, 楽しいことを話すその後フリートークに移り, 生活・仕事・料理・家族のこと, ハブニングなどを話す	指導者1人	なし
26	令和04年02月27日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	2	日本語でスピーチをしよう	目標:スピーチのタイトルと内容を考え, みんなの前で話すことができる 内容:袋井国際交流協会主催のスピーチコンテストに出場した学習者のスピーチを聞く。他の学習者はスピーチのタイトルを決め, 文を考え, 発表	指導者1人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
27	令和04年03月06日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	0	私の生まれた所 (予定していたテーマ) ※学習者なしのため話し合いを実施	目標:生まれた場所や名産品や綺麗な景色など紹介できるようになる 内容:学習者の参加を待ちながら, 今の外国人の生活・職場の状況や日本語習得の必要性, 今後の日本語教室などについて話す 学習者の参加がなかったので, テーマの対話活動はやれなかった。オンラインでの活動や学習者の参加について支援者で話す	指導者2人 外国人住民 Co.1人	なし
28	令和04年03月13日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	0	私の生まれた所 (予定していたテーマ) ※学習者なしのため話し合いを実施	学習者の参加がなかったので, テーマの対話活動はやれなかった。今後の教室活動について支援者で話し合う	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
日本語教育の実施内容【ワークピア磐田】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和03年06月06日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	2	みんなのもっと知りたいこと・話したいこと(自己紹介・テーマ意見)	「学習者の知りたいこと」をテーマに, 先ずは「自己紹介」で教室参加者互いの事を知り合い, 学習者が「知りたいこと・話したい事」についての意見を引き出し, 今後の「教室のテーマについて一緒に考え」話し合った	指導者3人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
2	令和03年06月20日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	3	インタビューをしよう	インタビューの方法として, 相手に質問をし, その答えに対して対話をして, 後にインタビューの答えを全体共有時に発表できるよう提示。 学習者同士でインタビューをし合い, それぞれの日本での生活や日本語の勉強方法などを情報交換した。 また, 全体共有では相手の答えを正確にかつ応用しながら発表した。	指導者3人 外国人住民 Co.1人	補助者2人
3	令和03年06月27日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	1	私の一日	目標は「自分の一日の過ごし方について話すことができる」 朝起きてから, 寝るまでの日常をどんな風に過ごしているのか, 朝のルーティーン, 仕事, 運動習慣, 夜の過ごし方などを時間の経過とともに説明する	指導者3人	補助者1人
4	令和03年07月11日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	5	磐田のまちの情報	磐田駅, 市役所, 警察, 消防署などの生活に必要となる情報の提示をし, 対話をする中で磐田の情報を増やして行くようにした。 また, スーパーや公園などの自分の住んでいる身近な情報の対話を行うことができることを目標に対話を行った。	指導者2人	補助者3人

5	令和03年07月18日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	4	外国人のコロナワクチン接種について	目標「友人・知人に、外国人のコロナワクチン接種について、伝えることができるようになる」 ・資料を使って外国人のコロナワクチン接種について情報提供 ・グループ対話で情報交換 ・目標達成は口頭で理解を確認 ・グループを変えて対話を行った。	指導者3人 外国人住民 Co.1人	補助者4人
6	令和03年08月01日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	7	お盆について	目標①日本のお盆という文化を理解することができるようになること ②自分の国のご先祖を供養する文化を説明できること 自己紹介/ゲーム/グループで対話/発表/ペア対話/ふりかえり	指導者3人 外国人住民 Co.1人	補助者3人
7	令和03年08月08日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	7	夏休みの過ごし方	目標:「夏休みの過ごし方について 話す・聞く・理解する・質問することができる」 ・自分の夏休みの期間、過ごし方についてレベルに合わせた対話をした(上級・初級) ・コロナ渦での夏休みについて自身の感染対策、過ごし方について話し合った	指導者3人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
8	令和03年08月22日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	6	防災	防災のことがわかり、防災のために何をするかを話すことを目標とした。 自分の国に災害があるか、また災害にあった時どうしたか、防災のために何をするかを提示し、グループで対話をした。	指導者3人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
9	令和03年09月05日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	7	新型コロナウイルス感染症	目標:コロナウィルスに感染しないようにしていることを話すことができる 感染しないための生活、緊急事態宣言とコロナワクチンの体験を提示し、各自の感染予防や気を付けていること、またコロナワクチンについて話した。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者4人
10	令和03年09月12日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	6	トラブル体験	目標:「トラブル(事件・事故・困ったこと)があったときの対応の仕方を話す・知る」 ・生活の中での困った経験、車・バイク・自転車運転するとき、注意する点や事件や事故が起きたとき、どのような行動をし、どこへ連絡すればいいかを話し合った。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
11	令和03年09月19日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	10	年金	目標:①年金が何か知っている②どうしたら年金をもらえるか知っている 全員自己紹介で話しやすい雰囲気を作る。 講師の話を聞き(ポルトガル語・英語通訳)、グループでわかったこと、わからなかったことを話し、全体で質疑応答。	指導者4人 外部講師2人 外国人住民 Co.1人	補助者4人
12	令和03年10月17日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	5	消防署のことを話そう	目標①消防に関係することを話すことができる。②消防署訪問に向けて消防の興味を増やす。 日本の消防署を紹介しながら、各自の消防署に関する体験を話し、また自国の消防を紹介しながら、10月24日の消防署訪問時に行う予定の119番通報の練習をしながら対話活動に繋げた。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
13	令和03年10月24日 (日)14:00-16:30	2.5	磐田消防署 ・ワークピア 磐田	6	消防署見学・訓練体験	目標: ①救急車の呼び方がわかる ②AEDの使い方がわかる ③消火器の使い方がわかる 消防署員の講師の方の説明を聞きながら、それぞれの訓練を体験した ・119番通訓練・AED訓練・水消火器訓練・救急・消防車説明と見学	指導者3人 外部講師1人 外国人住民 Co.1人	補助者1人

14	令和03年10月31日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	6	健康	目標は、「身体の不調の伝えかたや健康に関する話ができる。」とした。身体のイラストと不調を表現するワークシートを使用した。会話をしながら各自ワークシートに書き込みをし、ワークシートを元に全体共有をした。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
15	令和03年11月07日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	5	神社	目標: ① 神社について知る・話す ② 神社のお参り(参拝)の仕方を知る	指導者3人 外国人住民 Co.1人	なし
16	令和03年11月21日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	4	神社に行ってみよう	目標:神社でしたこと、見たものを話すことができる。 神社に行く前に目標の提示をし、事前確認をした。テーマの提示では神社の案内図と進行予定を説明しながら、何をしたり、見たりできるかを話した。行動体験活動後は、振り返りをしながら、目標の事後確認をした。	指導者2人	補助者1人
17	令和03年11月28日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	5	旅行	目標: ① 今までに行った旅行について、話すことができる ② これから行きたい旅行について、話すことができる	指導者3人 外国人住民 Co.1人	なし
18	令和03年12月05日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	4	年賀状を書こう	目標:年賀状のことがわかる、年賀状の宛先と内容を話すことができる 年賀状とは何か、どのように作成するかを見本の年賀状を見せながら説明し、誰宛にどんな内容を書くかをグループで話してから、書くように提示をした。	指導者2人	補助者2人
19	令和03年12月12日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	6	2021年 私のニュース	目標:今年自分にどんな出来事があったのか話すことができる ・嬉しかったこと ・楽しかったこと ・悲しかったこと ・辛かったこと などを自分のニュースとして説明し対話する	指導者3人	補助者1人
20	令和03年12月19日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	8	年末年始の過ごし方	目標: ①年末年始の予定を話すことができる。 ②日本や自分の国で年末年始にすることを話すことができる。 自分が年末や年始にすることを話し、加えて日本の国で年末年始にすることを提示した。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者2人 見学者1人
21	令和04年01月16日 (日)14:00-16:00	2	ワークピア 磐田	13	書道体験	1 書きたい言葉を伝える。 2 どうしてその言葉を選んだのか説明する。 3 他の人が書いた言葉を理解する。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者1人
22	令和04年01月30日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	6	スピーチを考えよう	目標:自分が発表するスピーチを考えることができる ・2/6日 成果発表会に向け、テーマを選定 ・スピーチの内容を補助者と一緒にまとめて作文にする ・発表の練習をする	指導者3人	補助者3人
23	令和04年02月06日 (日)14:00-16:00	2	オンライン	10	スピーチをしよう (成果発表会)	目標:自分で作成した原稿を読む、または覚えて話すことができる 先週と合わせて今週の前半でスピーチの練習し、後半に見学者を入れてスピーチ発表を行った。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者4人 見学者10人
24	令和04年02月20日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	8	おうち時間の過ごし方	目標: ①おうち時間の意味と使い方を知る ②おうち時間の過ごし方について話す、聞く 自分の過ごし方を紹介し他の人の過ごし方について聞き、どんな過ごし方があるのか対話する	指導者3人	補助者1人
25	令和04年03月06日 (日)14:00-15:30	1.5	オンライン	4	多言語教室	目標:自分の国の言葉を日本人に伝えたり、説明したりすることができる グループ対話では、学習者が母国語を補助者に説明した。全体共有では、補助者が学習者の母国語でスピーチをし、それに対して学習者が日本語で訳したり説明をしたりした。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	補助者3人

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【あつまれ！にほんごひろば(常設オンライン教室) 第17回 令和4年1月29日】

＜テーマとねらい＞

「子どものころの遊び」 相手が知らない自分の体験や自国の文化を伝えるために、新しい語彙や伝え方を身につける。

＜進行役＞1人

＜補助者＞6人

＜学習者＞8人(ブラジル1人、フィリピン1人、中国1人、ベトナム1人、インドネシア3人、ミャンマー1人)

＜使用教材＞オンラン会議システムアプリ、パワーポイント、筆記用具

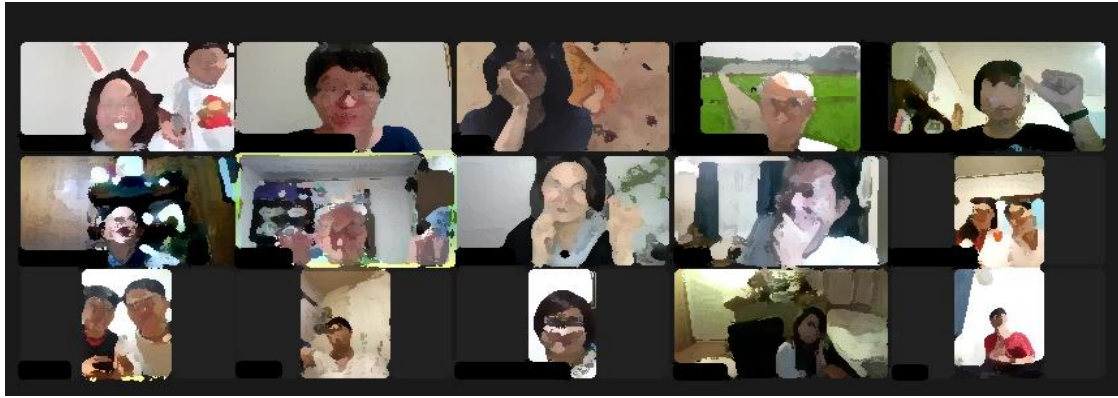
＜活動内容＞

1. 今日のながれの説明
2. あつまれ！にほんごひろばの紹介・オンラン会議システムの使い方・録画/撮影の確認
3. 自己紹介「名前・出身地・今日起きた時間」
4. アイスブレイク「ルーレットで決める この色のもの持ってきて」
5. 目標の確認とテーマ提示「子どものころのことが話せる」
6. グループ対話 30分
7. 発表
8. ペア対話 10分×1回

＜目標達成状況、気づいたこと、所感＞

- ・ほとんどの学習者が絵をかいたり写真を画面共有したりして子供の頃に遊んだものについて説明してくれた。
- ・初めにこのテーマを考えたときにはあまり盛り上がる話題ではないかと思ったが、実際には今までで一番というくらい盛り上がったテーマだった。
- ・自分が子供のころの遊び(日本にはない遊び)を画面共有して、その遊び方まで説明してくれた。
- ・興味深かったのは【ドッチボール】のボールの大きさが国によって大小様々だったこと。
- ・他には、日本で流行った【ゲームボーイ】などを他の国の人も子供のころに遊んだということ。
- ・子供のころにしたいはずらの話など。話題が尽きなかった。

※写真は別の回のもの



○取組事例②

【はじめよう！にほんご(初期日本語クラス) 第14回 令和4年10月31日】

＜テーマとねらい＞

「これから勉強したいこと」①これまで学習したトピックをふりかえり、自分の気持ちを伝える。②これから学習したいトピックを考え、自分の気持ちを伝える。③他の人が学習したこと、学習したいことを聞いてわかる。

＜進行役＞1人

＜外国人住民コーディネーター＞2人

＜補助者＞2人

＜受講者＞3人(フィリピン3人)

＜使用教材＞ワークシート、Can-do statements、トピック一覧、生活上の行為、日本文化体験活動資料(消防署見学・書道体験等の過去の写真)、五十音表

＜活動内容＞

1. 自己紹介「名前、国、今日のお昼ご飯」
2. トピック提示①
3. ワークシート記入、Can-do statenments記入(ペアを一回交代)
4. トピック提示②
5. ワークシート記入
6. グループ対話 ペア交代2回
7. 個人発表
8. 次回のテーマお知らせ

＜目標達成状況、所感＞

- ・Can-do statementsのシート記入。
- ・Aさん『私の一日』をもっと学習したい。日本の『年中行事』を知りたい。給与明細の見方が全くわからない等、の希望があった。今までのトピックに対して全般的に満足度が高かった。
- ・Bさん:電話で病院の予約ができない、診察等のことばがわからないので困っている。日本語を勉強して職場で同僚のブラジル人やフィリピン人とコミュニケーションをとりたい、残業・定時など仕事のことばを使えるようになりたい。年金の回は、日本語のことばが難しかった。
- ・Cさん:車の免許をとり自分の車が欲しい、家賃が高いのでアパートを引っ越したい等の生活の困りごとが聞けた。
- ・日本文化体験活動では『おりがみ』『着物体験』『書道体験』への希望が出た。
- ・学習者は3人だったので、話し合いの時にマンツーマンで話すことができた。
- ・衝立をとり、机を離して横並びにペアで対話した。また、消毒剤入りの加湿器を利用した。
- ・Aさん、BさんはCan-do statementsの結果も考慮し、11月7日に対話クラス参加を勧めた。対話クラスにつなぐために他の教室と交流して慣れてもらう機会が必要。



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

これまで日本語教室に参加・継続することが難しかった日本語学習を希望する外国人住民が教室に参加しやすくなった。 日本語初心者の継続増 ・日本語初心者対象の対話クラスを設置したことで、継続して参加する日本語初心者が増えた。(出席簿より。前年:年間13回以上参加の日本語初心者の方1人、今年度5人)補助者を充実させたり、よく話せる人と教室を分けたことが良かったと思われる。 日本語初心者の新規学習者の増加 ・外国人コミュニティにつながりのある外国人住民コーディネーターの声掛けにより、教室に参加する初心者に近い学習者が増えた。 対面教室が開催できないときはオンラインへ切り替え ・対面の5教室は、コロナウイルスの感染者数拡大状況に応じてオンラインと対面を切り替えて開催した。切り替えのタイミングは、各教室と事務局で相談して決めた。オンライン会議システムを使用した教室開催は昨年度から行ってきたこともあり、支援者もオンラインでの活動に少しずつ慣れて、コロナの感染者が増えてくると、オンラインへの切り替えを検討する教室が増えた。 常設オンライン教室設置の効果 ・土曜夜開催の常設のオンライン教室には、磐田の対面の教室には遠くて通えない人も参加し、学習機会の拡充ができた。小さいお子さんがいる補助者も参加することができた。
対話活動及び行動体験活動を通じて生活者としての外国人のエンパワーメントと更なる社会参加が可能になった。 ・アンケートの結果より、日本語が前より上手になっていると感じ、自信がついていることがわかる。また、日本での生活が以前よりもできるようになった、少しでもできるようになったと思う方も多く、更なる社会参加が可能になったといえる。年金や薬の飲み方、マイタイムラインなどは講師を呼んで教室活動を行い、消防署に出かけて救急救命を実地で学んだり、年賀状や書道で日本の文化に触れるなど、コロナの状況を見ながらできる範囲で日本での生活がより安全で豊かになるような活動を行った。ただし、教室によっては外に出かけていくなどの行動体験活動を控えたところもあった。 ＜記述のアンケートの回答より＞ ・先生に色々喋ったり、日本の生活や日本の習慣聞いたりして、どんどん生活に慣れるようになってると思います。 ・みんなは親切です。たくさん日本の文化や日常生活のこと等を教えてもらいました。 ・日本語だけじゃなくて、日本の文化とか日本人の習慣でも勉強になりました。

(3) 今後の改善点について

日本語レベルが上がったときのクラス移動 ・同じ建物内で開催している初心者対象のクラスから、少し上のレベルの「対話クラス」へ、参加者がある程度話せるようになったら移ってもらうことを想定していたが、日本語のレベルは十分でも、同じクラスがいいということで移動した人はいなかった。人数が少な目だったので対応できたが、自分の日本語レベルを確認して、納得して移動してもらう仕組みが必要。 行動体験活動の減少 ・学習者から、「コロナ禍で体験活動が無くなりました。この2年間ずっと(会話)勉強中心でつまらないと思う参加者が居るかもしれません。」という感想があった。地域のイベントに参加したり料理教室を計画したりということを積極的に行っていた以前に比べ、体験を通して日本語を学ぶことができにくくなっている。状況を見ながらできるだけ体験活動も増やしていくようにしたい。

取り組みの成果の発信や普及及び住民の日本語教育への理解の促進【活動の名称:取組2 成果発表会の実施】										
取組の目標		持続的な日本語学習が難しい学習者に対し、成果発表の場を設けることで、学習へのモチベーションを高めるとともに、地域住民や学習者が働く企業などに、日本語教育への理解を広める。								
内 容		学習者が日本語学習の成果を発表する成果発表会を教室ごとに開催した。 職場の人や地域の人などに案内し、観覧者を募集した。成果発表の場を設けることで学習者のモチベーションを高め、持続的な日本語学習につながった。 成果発表会(対面またはオンライン) 1回2時間×4教室(西貝教室, ワークピア教室, 竜洋教室, はじめよう!にほんご) 1回1.5時間×2教室(あつまれ!にほんごひろば, LaLa日本語教室) ・数回に分けたり、教室によっては予め告知をして当日、教室活動で発表する内容を決めたりスピーチの原稿を書くなどの準備を行い、発表の時間には見学者を招いて成果発表を行った。								
開催時間数		総時間11時間				内訳 2時間 × 4回 = 8時間 1.5時間 × 2回 = 3時間				
参加対象者		教室に参加する学習者, 日本語支援者, 学習者の友人や職場の人, 地域の人など				参加者数 (内 外国人数)			81人(22人)	
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	2	0	1	4	0	0	3	1	3	0
	インド(2人), カンボジア(5人), ミャンマー(1人)									
活動の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	テーマ	概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和3年11月20日(土) 19:00-20:30	1.5	オンライン	5	【あつまれ!にほんごひろば 成果発表会】 日本語でスピーチ	目標 ①いつもより長い, まとまった文章を話そう 自己紹介/アイスブレイク/目標確認/テーマ提示/支援者とブレイクアウトルームでペアになり, スピーチの文章を考える/見学者を入れてスピーチ発表 後日, 学習者本人と一部学習者の会社関係者に録画したスピーチの様子を共有		指導者1人 外国人住民 Co.1人	【補助者/発表会見学者】6人 【発表会見学者】2人	

2	令和3年12月19日(日) 14:00-16:00	2	西貝交流センター	4	【西貝教室 成果発表会】※対話クラス対象、子どもクラスの学習者も1人参加 1, スピーチ発表 2, ゲームを楽しむ	1, 前2回の教室活動で作成した「わたしの一年」のスピーチを発表 聴いている人は各発表者に質問をする。 2, ゲーム「福笑い」「すごろく」をする。	指導者2人	【補助者/発表会見学者】3人 【発表会見学者】1人
3	令和04年02月06日(日) 14:00-16:00	2	オンライン	7	【ワークピア教室 成果発表会】 ※対話クラス対象 スピーチをしよう	目標は、「自分で作成した原稿を読む, または覚えて話すことができる」とし, 前の週と当日前半でスピーチの作成・練習をし, 後半に見学者を入れてスピーチ発表を行った。	指導者1人 外国人住民 Co.1人	【補助者/発表会見学者】5人 【発表会見学】10人
4	令和04年02月27日(日) 14:00-16:00	2	オンライン	2	【竜洋教室成果発表会】 日本語でスピーチをしよう	目標:スピーチのタイトルと内容を考え, みんなの前で話すことができる 内容:袋井国際交流協会主催のスピーチコンテストに出場した学習者のスピーチを聞く。他の学習者はスピーチのタイトルを決め, 文を考え, 発表	指導者1人 外国人住民 Co.1人	【補助者/発表見学者】2人
5	令和04年03月06日(日) 14:00-16:00	2	オンライン	3	【はじめよう! にほんご成果発表会】 短いスピーチをする	1 何について話すか(主題)を考える。 2 話す内容(原稿)を作る。 3 見学者の前でスピーチを発表する。	指導者2人 外国人住民 Co.1人	【補助者/発表会見学者】6人 【発表会見学者】4人
6	令和04年03月12日(土) 14:00-15:30	1.5	オンライン	1	【LaLa日本語教室 成果発表会】 私が頑張ったこと	「頑張ったことや好きなことについて詳しく説明できる」を目標に, それぞれ頑張った事について話す。学習者は話す準備の段階で出した話題をスピーチとして話せるように準備をし, 最後に発表。	指導者1人	【補助者/発表会見学者】5人

(1)特徴的な活動風景

○取組事例①

【あつまれ! にほんごひろば 第13回 令和3年11月20日】
＜テーマとねらい＞
「日本語でスピーチ」 いつもより長い, まとまった文章を話そう
＜進行役＞1人
＜外国人住民コーディネーター＞1人
＜補助者＞6人
＜受講者＞7人(フィリピン2人, インドネシア2人, ミャンマー1人)
＜使用教材＞パワーポイント, オンライン会議システムアプリ有料ライセンス
＜活動内容＞
1. 今日の流れの説明
2. オンライン会議システムの使い方・録画・撮影の確認
3. 自己紹介
4. アイスブレイク
5. 目標の確認
6. テーマの提示
7. グループ対話
8. 発表口
＜所感＞
・今回, 初めて【スピーチ】というものに挑戦した。学習者は補助者と一対一で文章を30分ほどで考えた。
・テーマは【自己紹介, 自分の国の紹介】、【休日にしたこと, 行きたい場所】、【好きな季節】、【私の国の歴史と文化】、【フィリピンの大統領選挙について】(タイトルをつけてもらっていないので私が内容から推測)
・スピーチを録画し, 学習者に自分のスピーチ部分だけ配布。(学習者からは【録画をみたら, 自分がまだまだスピーチができていないと思った。頑張ります。】とコメントをもらった。)
・学習者の会社の中でスピーチの録画を共有したいとの連絡があったので提供して観てもらったところ, 会社の人たちから, 前向きなうれしいコメントをいただいた。学習者の職場の人に仕事のときとは違う様子を知ってもらうことは, 大変意義のあることだと感じた。



○取組事例②

【ワークピア教室 第23回 令和4年2月6日】

＜テーマとねらい＞

「スピーチをしよう」 自分で作成した原稿を読む、または覚えて話すことができる

＜進行役＞1人

＜外国人住民コーディネーター＞1人

＜補助者＞5人

＜受講者＞7人（ベトナム3人、インド2人、カンボジア2人）

＜使用教材＞

パワーポイント、オンライン会議システムアプリ有料ライセンス

＜活動内容＞

1. あいさつ、オンライン会議システム操作確認□

2. 自己紹介□

3. 今日のテーマと目標確認（事前）□

4. テーマ提示□

5. グループ対話□

6. 全体確認□

7. 休憩□

8. スピーチ発表□

9. 目標確認・評価（事後）□

10. お知らせ、学習者感想□

11. スタッフ振り返り□

＜所感＞

・学習者は補助者と共に原稿を作り上げたり、スピーチの練習をすることができた。そして、教室外部の見学者が参加した教室の中で各自スピーチが出来た。また、スピーチの内容に対して質問されたことにも答えることができた。

・学習者の半分は前回の教室に参加していない人だったが、当日の内容と原稿作成の連絡をメールでしたところ、それぞれ自分で原稿を準備していた。

・タムさんは、スピーチの原稿とは別に提示したい資料を持参していたが、画面共有ができなかった。共有していたら、もっと素晴らしいスピーチになったと思うと残念だった。

・前半のグループ対話は補助者1人と学習者1人のグループにしたかったが、参加人数の関係で出来なかった。そのため、補助者の負担が大きくなってしまった。

・学習者の仕事や会社の関係者が見学として参加してくれ、学習者への励ましや応援の言葉を貰うことができた。

また、ほかの教室の支援者や以前の対話クラスのスタッフも参加や見学をしてくれた。質問もたくさんしてくれた。

・進行する中で、学習者に向けた話しかたや外部の見学者に対する話しかたの使い分けがうまくできず、内容が伝わらなかったり、失礼な物言いをしてしまった箇所が何回もあった。

・今回のスピーチをする人数は7人だったが、外部の見学者用の流れを説明する時間を作ったこともあり、時間が足りなかった。



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

学習へのモチベーション:「はじめよう! にほんご」「あつまれ! にほんごひろば」では、事前に自分でことばを調べてスピーチの内容を考えてきた学習者もいた。「あつまれ! にほんごひろば」では当日参加できない学習者がコーディネーターに事前にスピーチ原稿を託して読んでもらったりと、普段よりも積極的な関わり方がみえるケースがあった。ワークピア教室では、支援者側にとっても初めての成果発表、しかもオンラインということで緊張感があり、一緒にイベントを成し遂げた達成感が学習者、支援者共にあったようで、次回への出席率もよかった。また、会社の関係者がオンラインで見学した学習者は嬉しそうな様子だった。

地域住民、企業への日本語教育に対する理解:スピーチを見た会社の方や地域の方には教室のことを理解してもらったり、学習者のいつもと違う面を見てもらったり、また、多文化共生について考えたりしてもらうことができた。

「あつまれ! にほんごひろば」には、学習者(特定技能)の登録支援機関の担当者が毎回参加してくれており、教室コーディネーターからその担当者を通じて当日のスピーチの動画を会社の方に共有してもらい、何名かの方から感想をいただいた。以下2名の方の感想概要。

・いつもと違う様子が見られた。自分のことをどう説明して理解してもらえるか、考える機会があることはとても大切。言われたことをやるのではなく、攻めのスタンスで吸収してもらいたい。スタッフの人たちも笑顔で見守ってくれているので安心して挑戦できるのだろう。

・日頃の努力のあとが見られ、一生懸命日本語で伝えようとする姿に感銘すら受けた。このような経験をすることで一層日本語レベルの向上がはかれると思う。こうした積み重ねが「多文化共生社会」実現に繋がっていくと改めて感じた。私たち日本人が海外からの方を受け入れる気持ちを持つことが「多文化共生社会」の実現の近道だと思う。

また、見学者としてその場に参加した方からは、「皆さんとても素晴らしいスピーチ、自分がほかの国に行ったときに、こんな風に人前で話すことができるだろうか」「日本語の上達に驚いた、普段会社で話すときとは別人のようだった、しっかり準備しているのだと思った」といった感想をその場または後日メールで受け取った。

(3) 今後の改善点について

より多くの方に見学者として参加してもらい、日本語教育や多文化共生への理解を広げたい。

教室の参加について、企業の方から問い合わせ・申し込みがある場合があり、今回参加してもらった会社関係の方はそういった関係でつながった方、またはその方を通じて、という方たちだった。学習者自身が申し込んだ場合はなかなか会社の方にアプローチする機会はないが、今後も学習者の会社関係の方と接する機会があれば、良い関係を保ちながら教室の様子を見てもらう機会も設けていきたい。

取り組みの成果の発信や普及及び住民の日本語教育への理解の促進 【取組の名称： 取組3 オンライン教室活動マニュアルの作成 マニュアルの名称:ふみだそう！オンライン日本語教室 はじめのいっぽ】			
実施期間	令和 3年 5月 27日～令和 4年 3月 18日	作成教材の 想定授業時間	オンライン活動のマニュアルのため、 授業時間の想定は特になし
対象者	マニュアルを使用する対象者： 日本語支援者・新規申込またはオンラインに不慣れな 学習者	教材の頁数	44ページ(表紙, 裏表紙含む)
成果物のリンク先	なし		

(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

マニュアルの作成はできた。開設と運用方法をマニュアルにまとめ、ホームページ等への公開は今後検討する。作成が遅れたため、途中での検証ができなかった。オンライン会議システムを初めて使う方にインストールの仕方等を説明するのに数回使用した。マニュアルの作成によって今年度の学習者の教室参加状況に変化があったとは言えないが、今後活用していきたい。

(3) 今後の改善点について

教室運営と並行してのマニュアル作成で、作成が遅れ気味となってしまった。とりまとめを別の編集委員に依頼するなど、早めに分担を見直し対処した方が、より良いものが早く出来上がったのではないと思われる。
これからもオンラインでの教室や講座開催は必要な状況が続くと思うので、次年度以降使いながら内容も修正・改善していきたい。

任意取組＜日本語教育を行う人材の養成・研修の実施＞【活動の名称:取組4 日本語ボランティア養成講座2021】											
参加対象者		日本語支援者,または日本語ボランティア活動に関心があり,修了後継続して教室で活動できる人				参加者数 (内 外国人数)		【実 人 数】17人(0人) 【延べ人数】61人(0人)			
開催時間数		総時間 20時間				内訳 2.5時間 × 8回					
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
										61	61
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年7月11日(日) 13:30～16:00	2.5	ワークピア 磐田	8	教室見学・オリエンテーション	1. 今日の目的・流れについて 2. 参加者自己紹介 3. オリエンテーション 4. 教室見学 5. 教室見学と前半の内容について (気づいたことや疑問点の共有) 6. お知らせ 7. ふりかえりシート記入		川添裕子	なし		
2	令和3年7月31日(土) 13:30～16:00	2.5	オンライン	15	地域の多文化共生	1. 参加者自己紹介 2. 高畑先生からの報告, 地域社会の多文化共生について 3. 質疑応答 4. グループディスカッション1 5. 4について代表者報告 6. グループディスカッション2 7. 高畑先生からコメント		高畑幸	なし		
3	令和3年8月7日(土) 13:30～16:00	2.5	オンライン	9	地域日本語教室のあり方と日本語ボランティアの役割	1. 「地域日本語教室のあり方」を考える 2. 日本語ボランティアの役割を考える 3. 日本語ボランティアの基礎力 4. おわりに コミュニケーションとは 5. ふりかえり		米勢治子	なし		
4	令和3年8月21日(土) 13:30～16:00	2.5	オンライン	10	対話を中心とした 教室活動	1. なぜ「対話を中心とした教室活動」なのか 2. 磐田版対話活動の紹介 3. 対話型活動をやってみよう 教室体験 4. 講座後半と今後の教室参加について		川添裕子	なし		
5	令和3年9月18日(土) 13:30～16:00	2.5	オンライン	6	活動計画の立て方	1. 確認事項(地域日本語教室について) 2. 活動計画の立て方 3. オンラインについて 4. 質疑応答 5. グループ活動のポイント 6. 次回について		田中琢間	なし		

6	令和3年9月25日(土) 13:30～16:00	2.5	オンライン	5	活動計画を立てる	1. あいさつ, 今日の流れについて 2. グループ分け確認 3. 実践授業計画(グループごと) 4. 共有 5. 活動進行表作成, 提示のアイデア(グループごと) 6. 共有 7. お知らせ	川添裕子	なし
7	令和3年10月16日(土) 18:30～20:30	2	オンライン	1	実践	あつまれ！にほんごひろば(オンライン)で受講者が進行役を実践 1. 事前打合せ 2. 活動の進行 テーマ「最近買ったもの」 (3. ふりかえりは後日感想提出)	川添裕子 (コーディネーター)	なし
	令和3年10月23日(土) 13:30～16:00	2.5	オンライン	2	実践	LaLa日本語教室(オンライン)で受講者が進行役を実践 1. 事前打合せ 2. 活動の進行 対話テーマ「私の買い物」 3. ふりかえり	川添裕子 (コーディネーター)	なし
	令和3年11月14日(土) 13:30～16:30 ※選挙で会場が使用不可になったため実践も延期, 第8回と前後した	3	西貝交流センター	2	実践	西貝教室に受講者が補助者として参加 1. 事前打合せ 2. 授業参加 対話テーマ「防災」 3. ふりかえり	川添裕子 (コーディネーター)	なし
8	令和3年11月13日(土) 13:30～16:00	2.5	ワークピア 磐田 ※会場の都合でi プラザから変更	3	振り返り・今後の活動について	1. あいさつ, 今日の流れについて 2. 第7回の実践の振り返りと共有 3. 講座全体の振り返り 4. これからの活動について考える 5. 座談会 6. ボランティア登録とふりかえりシート, アンケート記入	川添裕子	なし

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【日本語ボランティア養成講座 第4回 令和3年8月21日 13:30-16:00】
「対話を中心とした教室活動」
＜講 師＞ 1人 川添裕子(磐田国際交流協会事務局)
＜受講者＞ 10人
＜協力者＞ 4人(日本語教室学習者)
＜会 場＞ ワークピア磐田, オンライン会議システム
●対話交流型の活動を取り入れた経緯と磐田国際交流協会の活動のやり方を学んでから, 学習者に協力してもらい, 教室体験を行った。コロナの感染状況によりオンラインで行ったが, オンライン会議システムの操作が不安な方2名はワークピア磐田に来てもらい, 協会スタッフがサポートしながら参加した。

1. なぜ「対話を中心とした教室活動」なのか
1) 磐田で対話型を取り入れた経緯 2) 対話型を始めて変わったこと
2. 磐田版対話活動の紹介
1) 「にほんごでおしゃべりしよう!」の紹介 2) 対話の流れと活動のポイント 3) 学びにつなげるために
～休憩～
3. 対話型活動をやってみよう
1) 補助者の体験 2) ふりかえり
～休憩～
4. 講座後半と今後の教室参加について

感想・気づいたこと(以下抜粋)
・同じグループのどちらの方も喋りやすくて, とても楽しい時間になりました。面白い話がどんどん出てきて, たくさん笑わせてもらいました。もっと文化の違いや, 相手のことを知りたくなりました。どの言葉を知っていて, どの言葉が知らないのか分からないので, 言葉選びの難しさを感じました。
・はじめは少し緊張しましたが, とても楽しく話ことができました。今回はマイキさんの日本語も上手で話も盛り上がり, みんな楽しめたかなという気がします。もう少し日本語が初心者の方との場合は, 大変なこともあるのかなとも感じました。私も回を重ねるうちに, わかりやすい日本語を話せるようになりたいなと思います。今日実際に対話してみて, ボランティア参加したいという気持ちが高まりました。ありがとうございました。



きょうの ながれ	14:30	・1	あいさつ
		・2	じこしょうかい
	14:45	・3	きょうの もくひょう
		・4	きょうのテーマ 「わたしの たいせつな もの」
	14:50	・5	グループで はなす
	15:10	・6	はっぴょう
	15:20	・7	きょうの もくひょう(かくにん)
	15:22	・8	きょうの かんそう

○取組事例②

【日本語ボランティア養成講座 第7回 令和3年10月16日 18:30-20:30】
「実践」
＜コーディネーター＞1人 川添裕子
＜受講者＞1人
＜協力者＞20人（あつまれ！にほんごひろば 学習者10人、支援者10人）
＜会 場＞オンライン会議システム
●前回の講座で作成した活動進行表をもとに、実際の教室で進行役を行う。グループ対話のときのグループ分けは教室コーディネーターが担当。

0. 事前の打合せ
1. あいさつ、自己紹介（名前、国、今日の夕飯）
2. トピックの提示「最近買ったもの」
3. 事前自己評価
4. グループ対話
5. 全員で共有
6. まとめ
7. 事後自己評価
8. お知らせ

＜受講者のふりかえり＞
どこまで易しい日本語で話すか、という点が難しかったです。特に初めは参加者の方々のレベルもわからなかったのでゆっくり話そうと思っていたのですが、グループ会話の様子を見て皆さんかなり理解できていたので、後半はもう少し普通に話すことにしました。
易しい日本語を話すこと自体も難しく、たどたどしくなってしまったので、次回は分かりやすい言葉を選択しつつ、なるべくもう少し普通に話せたらいいなと思います。特に、私は一文が長くなりがちなので、自然に文を区切って話す練習が必要だなと思いました。
みんな楽しんで話ができていたので、トピック自体はよかったと思います。
不手際な点も多く、ご迷惑をおかけしました。特に最初は私のPCの調子が悪くバタバタしてしまい、失礼しました。コーディネーターの松浦さんや、補助者の方にたくさん助けていただきました。みんなで作っていく会なんだな、と実感しました。ありがとうございました！



(2) 目標の達成状況・成果

・新規の支援者を養成し、増やすことができた。講座修了後、教室活動に継続的に関わっている方は5人。対話活動のプログラム作成と進行も3人がやってみようということで、今後教室で実践しながら経験を積んでもらう。
・受講者の人数に対し、継続的に教室に関わるようになった人数は少ないが、受講の感想で、地域の外国人に関心を持ち、地域と外国人の間を持つような人になりたい、無関心にならずイベント参加など声掛けをしたい、などといった声が聞かれた。教室参加にはつながらなかったが、地域の多文化共生に関心を持った地域の方が増えたことは成果と言える。
・初回と実践の回の一部、最終回以外はコロナウイルスの感染状況によりオンラインで行ったため、オンライン会議システムの使用が初めての方もいたが、使っていくうちに慣れてオンラインの活動にも対応できる支援者を養成することができた。

(3) 今後の改善点について

・気楽に多くの人に参加してもらえるようにと、前半だけのコースも設定したが、前半だけで教室に参加するようになった方は1人と少なかったため、設定した意味があまりなかった。通しで進行役の体験もしてもらった方が活動の面白味を感じてもらえたかもしれないのでコースの設定は要検討。

任意取組＜日本語教育を行う人材の養成・研修の実施＞【活動の名称：取組5 日本語支援者スキルアップ研修2021】

参加対象者		日本語支援者、または日本語ボランティア活動に関心があり、修了後継続して教室で活動できる人				参加者数 (内 外国人数)		【実 人 数】28人(0人) 【延べ人数】66人(0人)			
開催時間数		総時間10時間				内訳 2時間 × 2回 =4時間 1.5時間 × 4回 =6時間					
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
										66	66
	※該当する場合のみ										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年7月31日(土) 10:00~11:30	1.5	ワークピア 磐田	2	Webシステム練習 会①	会場です実際にオンライン会議システムでつながり体験してみる 1. オンラインの参加の仕方 2. 画面とマイクのON/OFF 3. チャットの入力、共有したいサイトのURLを送ってみよう 4. ホワイトボードを使ってみよう		川添裕子 (コーディネーター)	なし		

2	令和3年9月4日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	20	やさしい日本語・相手に合わせたコミュニケーション	※受講者20名にはオンデマンド視聴希望者6名含む 1. 自己紹介 2. クイズ 3. 世界や日本の動き 4. ワークショップ	聖心女子大学日本語日本文学科教授 岩田一成氏	なし
3	令和3年10月30日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	18	オンラインでつながる日本語教室	※受講者18名にはオンデマンド視聴希望者5名含む 1. 自己紹介, グループの活動紹介 2. 外国ルーツの親子はどうしてる? 3. オンラインでできるさまざまなこと 4. ひとりずつに合った学習支援を 5. やさしい日本語 6. わからないってどんな感じ? 7. 対面でもオンラインでも 8. 合理的な配慮を 9. 多文化共生とは	地球っ子グループ多文化子育ての会Coconico代表 井上くみ子氏	なし
4	令和3年11月20日(土) 10:00~11:30	1.5	オンライン	8	情報交換会①	1. あいさつ, 今日の流れ 2. アイスブレイク(間違い探し) 3. 自己紹介 4. 対話のやり方とルール説明 5. グループ対話 情報交換 役立ちそうなおすすめ情報 困ったこと 6. 全体で共有 7. 感想・ふりかえり	川添裕子(コーディネーター)	なし
5	令和3年12月11日(土) 10:00~11:30	1.5	オンライン	8	Webシステム練習会②	事前に参加者に募集した「知りたいこと」を中心に, 実際に操作してみる 1. あいさつ, 今日の流れ 2. 自己紹介 3. アイスブレイク 4. ホワイトボードと画面共有 5. バーチャル背景の設定 6. ブレイクアウトルームの分け方	川添裕子(コーディネーター)	なし
6	令和4年2月5日(土) 10:00~11:30	1.5	オンライン	10	情報交換会②	1. あいさつ, 今日のゴールと流れ 2. 自己紹介 3. グループ作成 (話したいことでグループ分け) 4. グループ対話 5. 全体で共有 6. オンライン操作で確認したいこと (ホワイトボードの使い方) 7. ふりかえり	川添裕子(コーディネーター)	なし
計		10		66				

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【日本語スキルアップ研修 第2回 令和3年9月14日10:00-12:00
「やさしい日本語・相手に合わせたコミュニケーション」
＜講師＞ 聖心女子大学日本語日本文学科 教授 岩田一成氏
＜受講者＞ 20名(14名+オンデマンド視聴6名)
＜会場＞ オンライン会議システム

●日本語支援者から聞かれる日本語初心者への対応が難しいという課題に対して、有効なコミュニケーションの仕方を学ぶ。

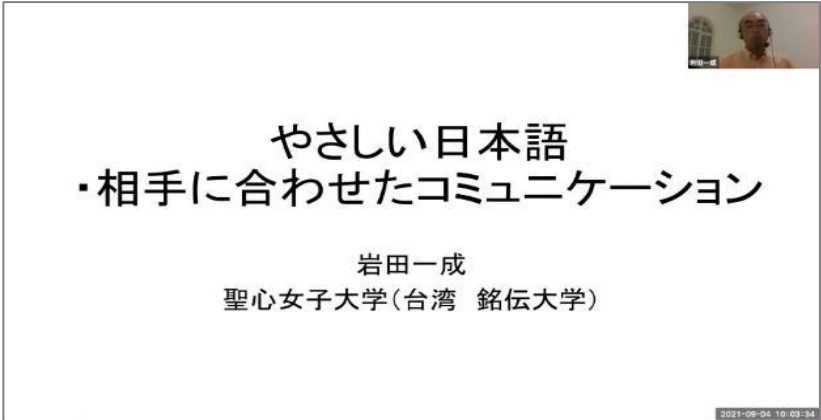
1. 自己紹介
2. クイズ
3. 世界や日本の動き ・SDGs ・国が動き出しました
4. ワークショップ

＜ふりかえりシートより＞

・本日のお話で、1センテンス17文字ということは、とても印象的でした。私自身が話をする時、また聞くときに、長いと何が言いたいのかわからなくなっていることがよくあります。17文字という指標があると、それを意識して話していけば、自分の中でも整理できる気がします。『日本で生活する外国人のためのいろんな書類の書き方』と、VOICE TRAは仕事の時にたいへん役に立つと思い、職場で利用したいと思います。

ありがとうございました。

・外国の方とのコミュニケーション上手になるヒントが満載でしたし、日本語教室のあり方につながるようなお話も伺えました。今日のお話の中の日本語教室で実践するとよいことを、受講しなかった支援者の皆さんとも共有して、外国の方たちが楽しんで通ってくる教室にしていければと思います。私自身コミュニケーションが苦手ですが、接続助詞を使わない、文を短く、あいづち・繰り返し、たくさん話してくれる声掛けなど、スキルを上げていきたいと思っています。



○取組事例②

【日本語支援者スキルアップ研修 第4回 令和3年11月20日(日) 13:30-16:00】

「情報交換会」

＜コーディネーター＞ 川添裕子

＜参加者＞8人

＜会 場＞オンライン会議システム

●普段なかなか話す機会の無い、他教室の人たちと情報交換し、課題解決や改善につなげる。

1. あいさつ、本日の流れの説明
2. アイスブレイク(間違い探し)
3. 自己紹介
4. 対話のやり方とルール説明
5. グループ対話 情報交換
6. 全体で共有
7. 感想・ふりかえり

グループ対話 情報交換「最近の教室活動の様子、みんなに役立ちそうなおすすめ情報、困ったこと」

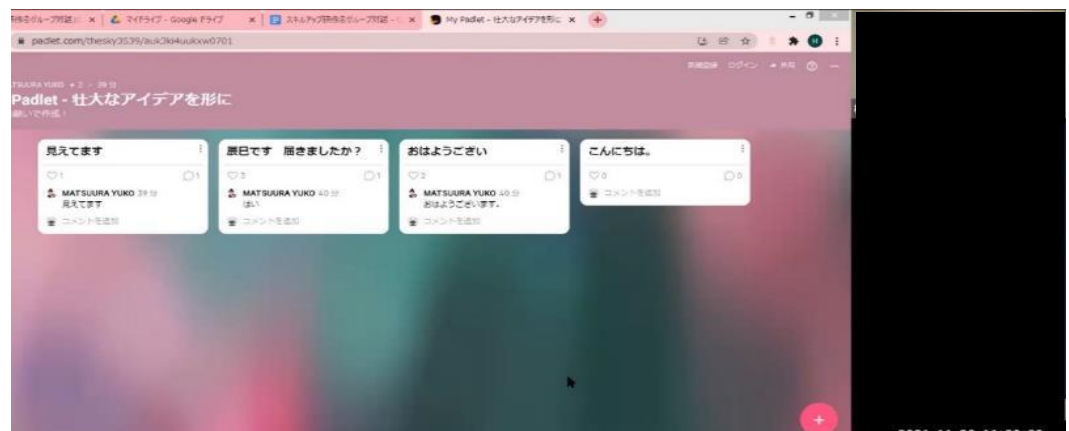
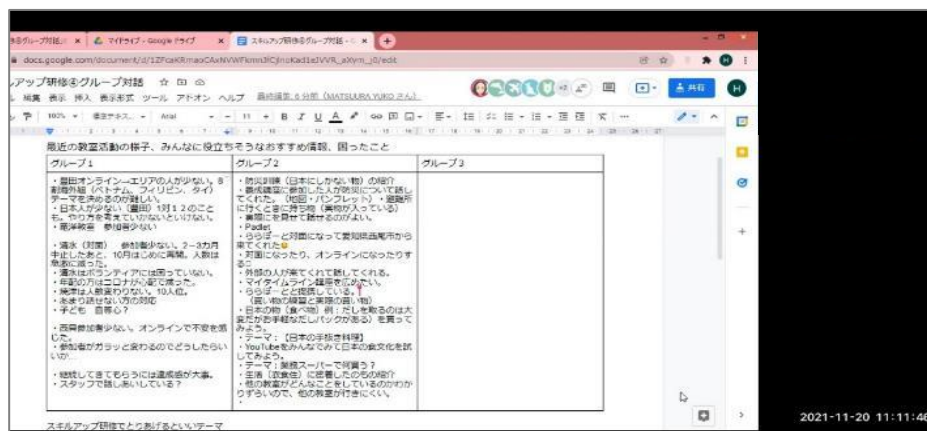
オンラン会議システムのブレイクアウトルームで2つのグループに分かれ、参加者が普段の教室活動の様子を共有したり、やってみて良かった活動などを紹介しあった。話し合った内容は、オンライン上で随時書き込んでもらい、他グループの話し合いの様子もわかるようにした。また、全体での共有の時にも使用した。

＜話し合いで出た内容 抜粋＞

- ・コロナで参加者が少なくなっている様子
- ・オンラインでの活動に関する不安
- ・防災訓練の紹介や外部講師を呼んで開催した講座などやってよかったテーマ、やってみたいテーマ
- ・オンラインの活動で使えるようなツール(Padlet)の紹介と試行

＜参加者感想＞

- ・他の教室の人も同じことを悩んでいることがわかり安心した。それぞれ悩みがあるということがわかった。
- ・コロナで外出制限をしているところもあるという話も企業の方から聞いたので、学習者が減っているのはあまり気にしすぎない方がいい。
- ・教室でのスキルアップだけでなく、その先の日本社会と学習者をどう結び付けていけばいいかが課題だと感じている。



(2) 目標の達成状況・成果

日本語初心者が継続しにくい、オンライン機器の取り扱いに慣れない、といった課題に対し、日本語支援者のコミュニケーション力、オンライン活動への対応力のスキルアップを目指した。

・やさしい日本語、オンラインの活動についての講義では、参加者に多くの学びがあったことが感想からわかった。すぐに課題の解消に結びつくわけではないが、実践の中で徐々に改善されていくと思われる。オンラインでの活動の際にアイスブレイクを取り入れるようになった教室もあり、オンラインは大変、という意識から、オンラインならではの活動を楽しもうとする気持ちになったことがうかがえた。

・Webシステム練習会では、まだ教室でオンライン会議システムのホストをしたことが無い方にもグループ分けの練習をしてもらったり、自信をつけてもらう機会になった。

・情報交換会では、新しいオンラインツールの使い方を参加者同士で学んだり、他教室の状況などの情報交換をしたりして、活動へのモチベーションが高まったことも成果と言える。

＜以下、受講者感想より＞

・オンラインでの教室は大変だという先入観がありましたが、質問の仕方を工夫すれば、背景にあるものやストーリーまでも引き出す事ができるということがわかりました。オンラインだからこそできることは、まだまだあると思うので、先生の今日の講義を参考にして、自分でも考えてみたいと思います。(第3回)

・やさしい日本語は、誰にも通じるのではない、その人にあわせてことばをえらぶ。今できることを引き出す方法を考える。質問をする時は、ストーリーのある質問をする。などなど、大人の外国人の方にもヒントになるお話をたくさんしていただきありがとうございました。(第3回)

(3) 今後の改善点について

各教室で数名の支援者が参加してくれたが、もっと多くの方が参加してくれた方が活動を変えていきやすいと思うので、個別に参加を呼びかけたり、参加しやすい日時を予め聞くなど、工夫が必要。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

さまざまな理由により、日本語学習への参加、あるいは継続的な参加が難しかった外国人に対し、日本語教室の周知の仕方や学習を継続しやすいくみを作り、学びたい誰もが学習できる環境を整え、日本語の持続的な学習につなげる。同時に教室での活動には「生活者としての外国人」の生活課題の解決につながるものや、地域の多文化理解を促進する活動を取り入れて、誰もが地域社会で自分らしくより豊かに生活できることを目指す。

(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

日本語を学習したい人が学習できる環境をある程度整備することができた。 ①教室の周知と登録の方法を工夫して、日本語学習を希望する人が教室にアクセスしやすい環境を整えた。 ・周知の工夫:外国人住民コーディネーターで同国出身者のネットワークがあり、IT端末操作のスキルがある人はSNSの投稿や通訳・翻訳、学習者と教室のつなぎ役として連絡をとったりと積極的に活動して、教室の周知や初級レベルの学習者の学習継続につながった(登録時に教室を知った媒体を確認した)。 ・教室登録方法の工夫:日本語があまり使えない方も申し込みをためらわないよう、オンライン上に登録フォームを作成し、チラシに掲載したQRコードから登録できるようにした。電話等で問合せがあった方にもできるだけ登録フォームを案内し、新規申込者のうち9割がオンライン上で申込み。メールアドレスや名前の聞き間違いも無くなり、登録がスムーズになった。 ②学びたい誰もが学習できる環境を整え、日本語の持続的な学習につなげた。 ・常設オンライン教室の設置:交通手段が無く遠くの教室に通うことができない人等に学習機会を提供することができた。常設オンライン教室の参加者52名のうち、磐田市外在住の人が39名と75%を占めた。他の対面の教室にも、オンラインの期間だけ、遠くから参加する学習者もあり、オンラインで日本語教室が開かれれば、住んでいる場所に関係なく参加したい人が多いということがわかった。また、磐田市内在住の参加者からも、コロナ感染の心配なく参加できる、という声が聞かれた。 ・オンラインの活動が苦手な学習者や支援者の支援:オンラインマニュアルの作成が遅れたため、オンライン会議システムのインストールや使い方をマニュアルを使って説明することはあまりできず、期間中に参加につなげることはできなかったが、養成講座やスキルアップ研修、会議などもオンラインで行うことで支援者がオンラインでの活動に慣れ、対面の教室開催が難しいときには、「オンライン」が支援者側から選択肢として提案されるようになり、学習できる環境の継続につながった。 ・学習者の継続について:日本語初心者レベルのクラスを設置したことで、継続して教室に参加する日本語初心者は増えた。このレベルのクラスが意外にもオンラインと対面どちらも続けて参加した人が多かった。全体的にはオンラインと対面の切替で、参加できなくなった人もいた。オンラインが苦手に参加できない人よりも、対面になると参加できなくなった人が多かった。働いている会社から外出を控えるように言われた人や、遠方からオンラインの間だけ参加していた人など。 ・日本語支援者の増加とスキルアップ:日本語ボランティア養成講座の実施により、教室に参加する支援者が増えた。また、スキルアップ研修の実施により、参加した支援者の活動に対するモチベーションが高まったり(感想より)、オンラインならではの活動方法を学んで教室活動に取り入れるなど、オンラインの活動を前向きにとらえるよう、意識が変わったように感じられた。 ③教室活動に生活課題の解決や多文化理解を促進する活動を取り入れたことにより、学習者が日本で生活しやすくなったり、教室活動に関わったことがなかった人たちの多文化理解の促進につながった。 ・防災や救急、消防、年金、コロナウイルスの感染予防などの生活や安全に関わることから、多言語教室、文化習慣の違いなど、多文化理解を促進するものなど、さまざまなテーマを取り入れて活動を行った。年金の回では自分の年金についての質問に年金事務所の方に答えてもらったり、薬の飲み方の回では国から持ってきた薬が切れたときにどうするかなど、知りたいことを質問しながら学んだ。こういったことがアンケートの「日本で生活ができるようになった」ことにつながったと思われる。また、スピーチを教室外の方に聞いてもらったことや、外部講師に入ってもらったことも、多文化理解の促進につながったことがスピーチ参加者や講師の感想からわかった。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

・磐田市外国人情報窓口で転入者に日本語教室の案内をしてもらい、学習者の教室参加につながった。 ・磐田市地域づくり応援課に職員を講師として派遣してもらい「マイタイムライン講座」を2教室で行った。水害の際の対応について、日本の災害についての知識の少ない外国人住民にも情報を伝え、考えてもらうことができた。 ・磐田市消防署と連携し、実際に中東遠消防指令センターと電話をつなぎ緊急通報の練習をしたり、心肺蘇生の方法などを専門家(消防署職員)から学んだ。 ・浜松東年金事務所と連携し、年金の仕組みや、手続きのことについて講義と質疑応答を行った。事前に打合せを重ね、資料についてはイラストがあるわかりやすいものや多言語のものを用意してもらうなど、外国人住民に伝わる工夫をお願いした。 ・学習者を紹介してくれた特定技能の登録支援団体の方が補助者となり教室に参加してくれるようになり、引き続き、日本語の対話に慣れることが必要な学習者を教室につないでくれたり、成果発表会のときに、会社の方に声をかけ、参加を促してくれた。 ・浜松日本語学院と、同学院の日本語教師養成講座修了者を日本語支援者として教室に紹介してもらったり、受講中の方の見学を受け入れたりするときの取り決めを作り、支援者になってもらったり見学を受け入れたりした。

(4) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・SNSで教室の様子を発信したことで外国人の登録者が増え、投稿を見た方からの問い合わせ、申し込みがあった。外国人住民コーディネーターの協力で多言語で発信できたこと、投稿の頻度が上げられたことが良かった。 ・外国人コミュニティとつながりのある外国人住民コーディネーターがSNSで外国人のグループに教室の情報を流したり、個人的に声をかけたりしてくれたことにより、フィリピン人、ブラジル人の申し込みが相次いだ。 ・日本語ボランティア養成講座の募集は磐田市の広報誌、SNS、ホームページ等を使って周知・広報を行った。広報誌は市内全戸配布のため、広報誌の反応が大きかった。 ・協会会報誌に日本語教室の情報を掲載したり、特集を組んだりして、活動の周知や事業成果の発信を行った(会報誌は会員への配布に加えて磐田市での全戸回覧を行っている)。 ・ららぽーと磐田で協会と他団体、自治体が関わって開催した「磐田・袋井・掛川インターナショナルフェア」で日本語教育事業の取組をパネルで紹介した。 ・教室で行った成果発表会に、学習者の会社関係の方、地域の方などに参加して日本語スピーチを聞いてもらい、その様子をSNSで流した。
--

(5) 改善点、今後の課題について

・対面の教室が開催できないときの選択肢の一つとしてオンラインが定着した教室があったのはよかったが、切り替え時の参加者への連絡など教室スタッフ側の負担や、切り替えることで参加できなくなる人がいることを考えると、できることなら頻繁に変えない方がよいと感じた。 ・外国人住民コーディネーターでSNSに積極的に投稿をしたり、コミュニティへの声掛けをしてくれる人がいる一方、そのような活動が難しい人もいて、SNSの投稿の仕方や外国人住民への声かけのお願いなど、サポートできる場所は事務局でもう少し丁寧にしたリ、研修などを行う必要があった。
--

(7) その他参考資料

- ・いわたICE(磐田国際交流協会)地域日本語教室(マップ型開催日入り)
- ・ASSOCIAÇÃO DE INTERCÂMBIO INTERNACIONAL DE IWATA MAPA DO CURSO DE JAPONÊS DA REGIÃO DE IWATA
- ・Iwata ICE(Iwata Association for International Communication and Exchange)JAPANESE CLASSES MAP in IWATA CITY
- ・あつまれ！にほんごひろば ICE ONLINE 2021
- ・西貝日本語教室 ♪たのしい にほんご♪
- ・はじめよう！にほんご
- ・LaLa!にほんごきょうしつONLINE
- ・竜洋日本語教室
- ・ワークピア にほんご きょうしつ
- ・日本語ボランティア養成講座2021

- ・日本語支援者スキルアップ研修
- ・日本語支援者スキルアップ研修 第2回「やさしい日本語・相手に合わせたコミュニケーション」
- ・日本語支援者スキルアップ研修 第3回「オンラインでつながる日本語教室 ～アナログのやさしい関係をデジタル空間へ～」